

■市民アンケート調査の主な結果

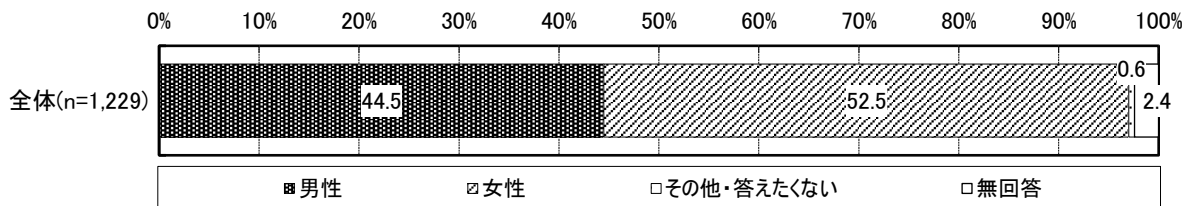
※令和8(2026)年2月～3月にかけて実施

※調査対象3,000件、有効回答1,229件(41.0%)

あなたとご家族について

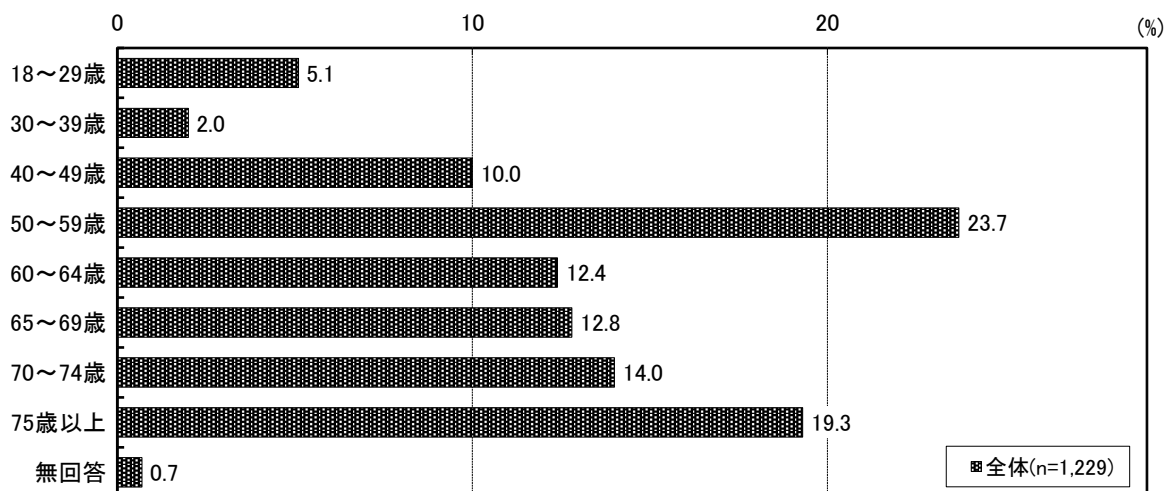
問1 あなたとご家族に関して、①から⑦のそれぞれについてあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

①あなたの性別



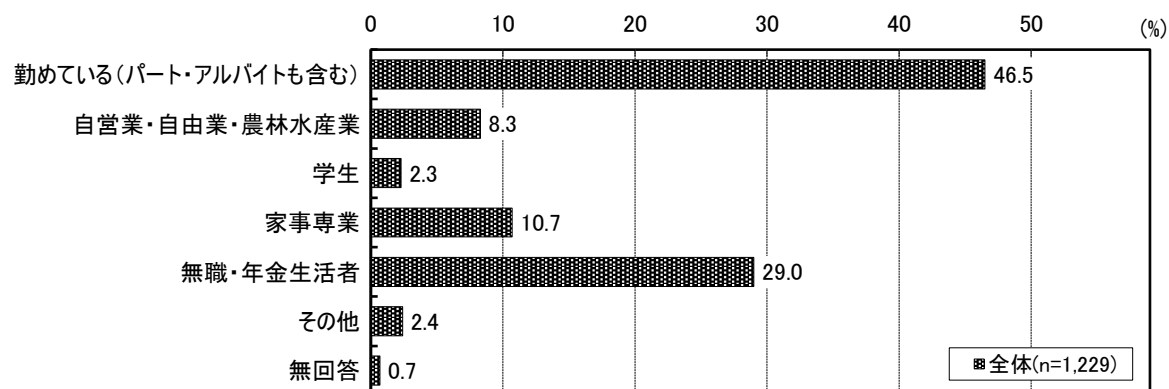
- ・「女性」が52.5%、「男性」が44.5%、「その他・答えたくない」が0.6%となっています。
- ・年齢別にみると、「女性」は40～64歳で56.1%とやや多く、「男性」は65歳以上で47.5%と他の年齢層よりやや多くなっています。

②あなたの年齢



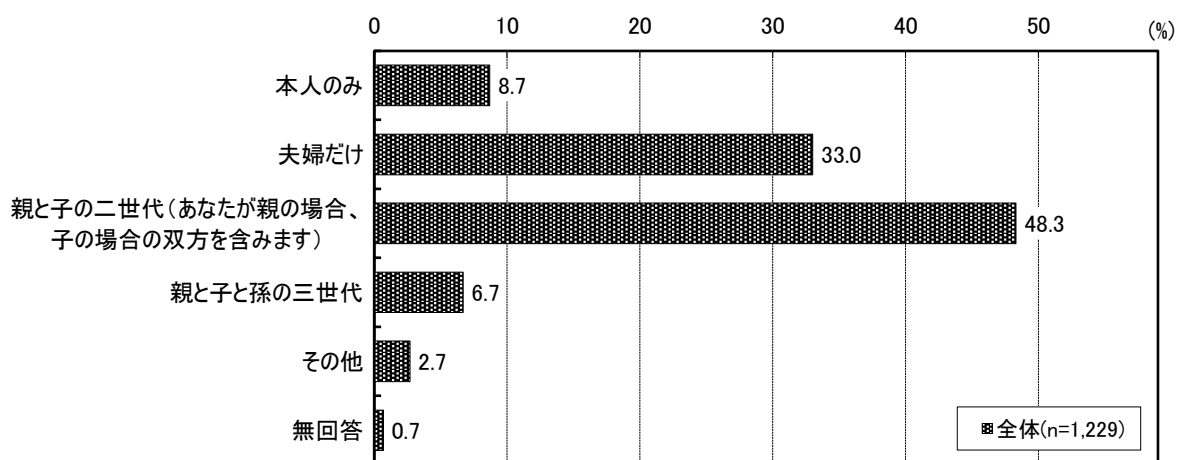
- ・「75歳以上」が19.3%、「70～74歳」が14.0%、「65～69歳」が12.8%と、高齢層の割合が多くなっています。一方、「30～39歳」が2.0%、「18～29歳」が5.1%と少なくなっています。
- ・性別にみると、「75歳以上」は男性が22.5%と女性の16.4%より多く、男性の高齢層の割合がやや多くなっています。一方、「50～59歳」「40～64歳」は女性の割合がやや多くなっています。

③あなたの職業



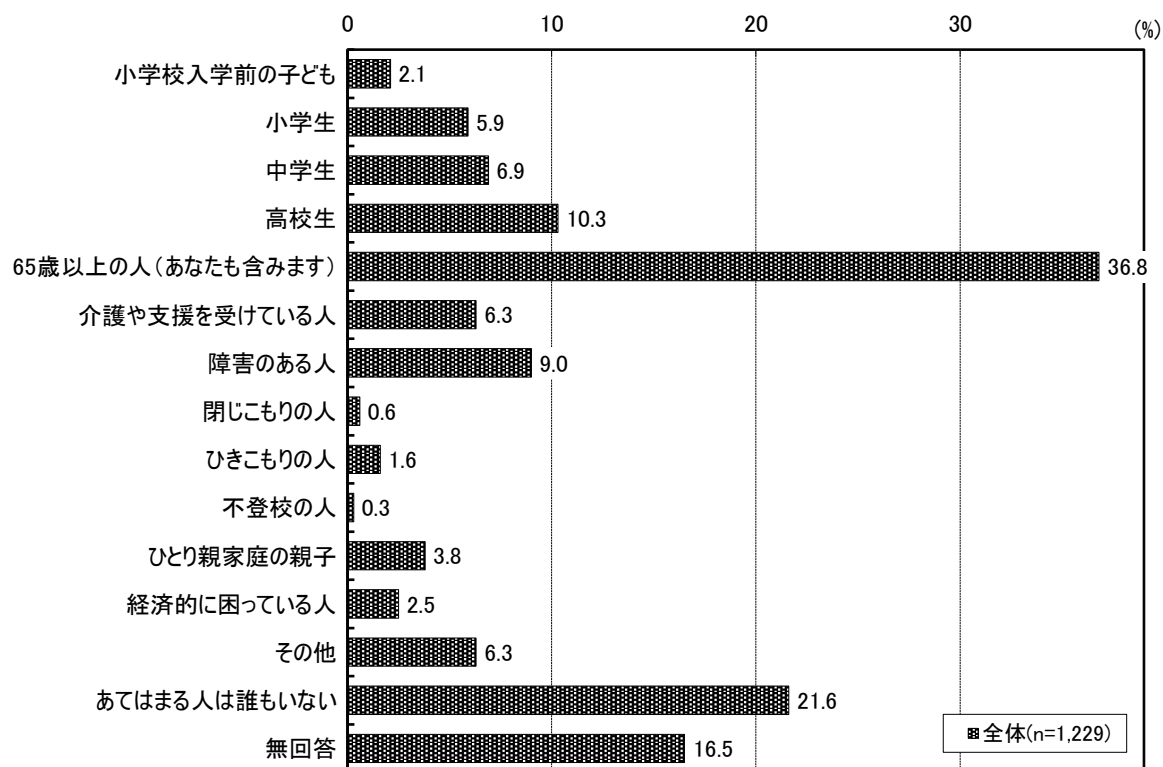
- ・「勤めている（パート・アルバイトも含む）」が46.5%と最も多く、次いで「無職・年金生活者」が29.0%、「家事専業」が10.7%、「自営業・自由業・農林水産業」が8.3%となっています。
- ・年齢別にみると、「勤めている（パート・アルバイトも含む）」は40～64歳で72.3%と多く、18～39歳でも54.5%と多くなっています。一方、「無職・年金生活者」は65歳以上で56.5%と多くなっています。「学生」は18～39歳で31.8%と多くなっています。

④家族構成



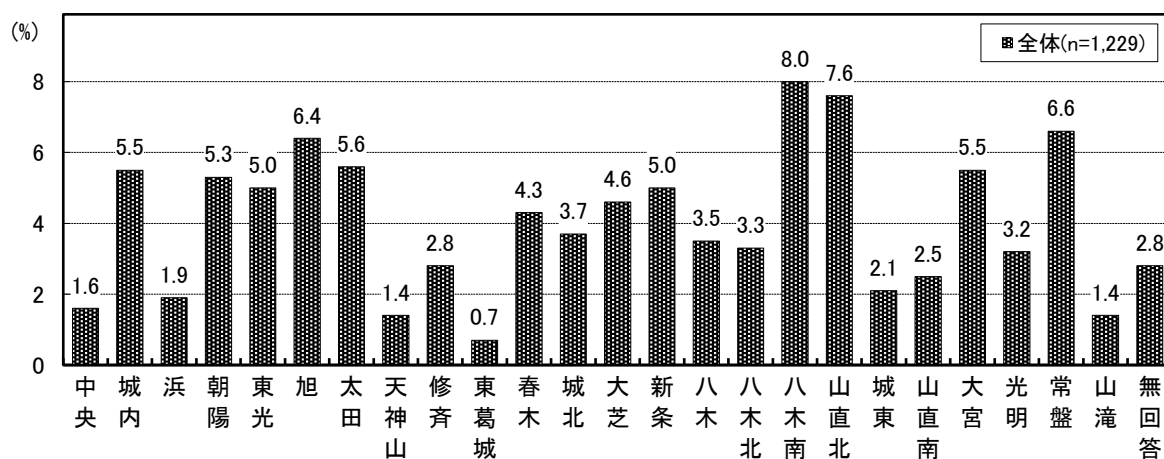
- ・「親と子の二世帯（あなたが親の場合、子の場合の双方を含みます）」が48.3%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が33.0%、「本人のみ」が8.7%、「親と子と孫の三世帯」が6.7%となっています。
- ・年齢別にみると、「親と子の二世帯（あなたが親の場合、子の場合の双方を含みます）」は18～39歳で87.5%と非常に多くなっています。「夫婦だけ」は65歳以上で52.5%と多く、「本人のみ」も65歳以上で12.9%とやや多くなっています。

⑤同居家族におられる方（〇はいくつでも、あなた自身も含みます）



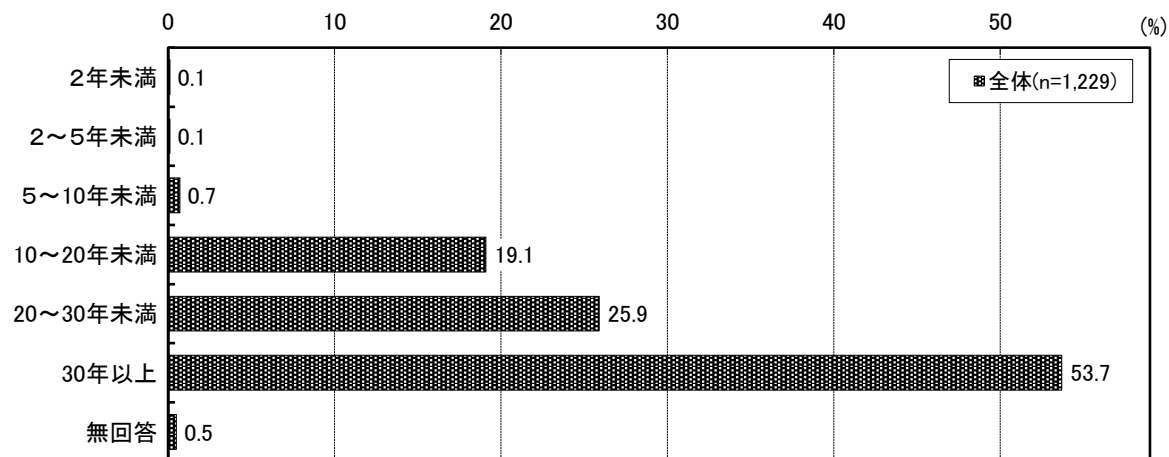
○「65歳以上の人（あなたも含みます）」が36.8%と最も多く、「あてはまる人は誰もいない」が21.6%、「高校生」が10.3%、「障害のある人」が9.0%となっています。

⑥お住まいの地区（小学校区）



・「八木南」が8.0%と最も多く、次いで「山直北」が7.6%、「常盤」が6.6%、「旭」が6.4%となっていますが、大きな偏りはみられず、各地区に分散しています。

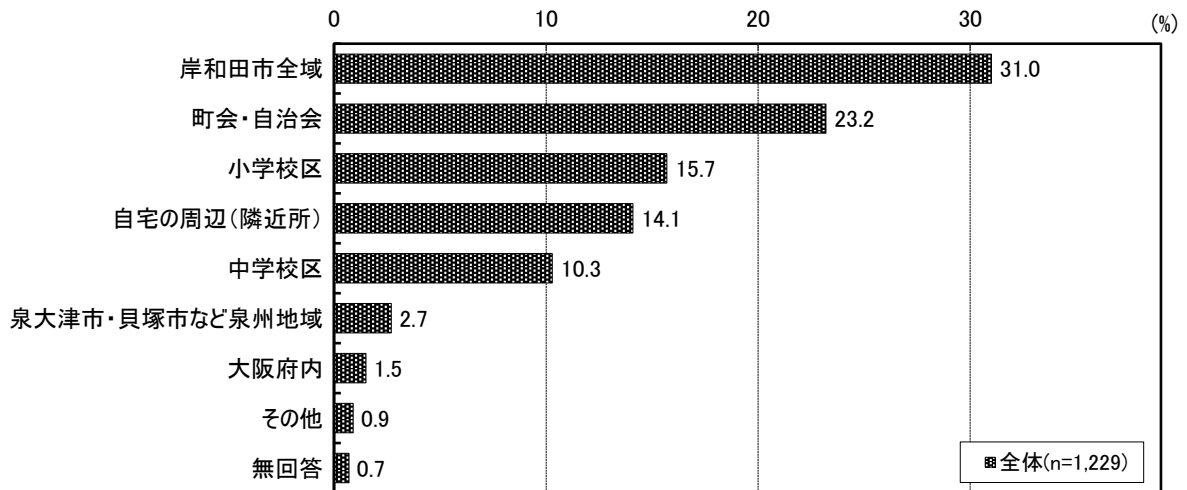
⑦お住まいの地区での居住年数



- ・「30年以上」が53.7%と最も多く、次いで「20～30年未満」が25.9%、「10～20年未満」が19.1%となっており、長期居住者が多数を占めています。
- ・年齢別にみると、「30年以上」は65歳以上で78.3%と非常に多くなっています。一方、「10～20年未満」は18～39歳で45.5%、「20～30年未満」は18～39歳で40.9%と多く、若年層では比較的居住年数が短い傾向がみられます。

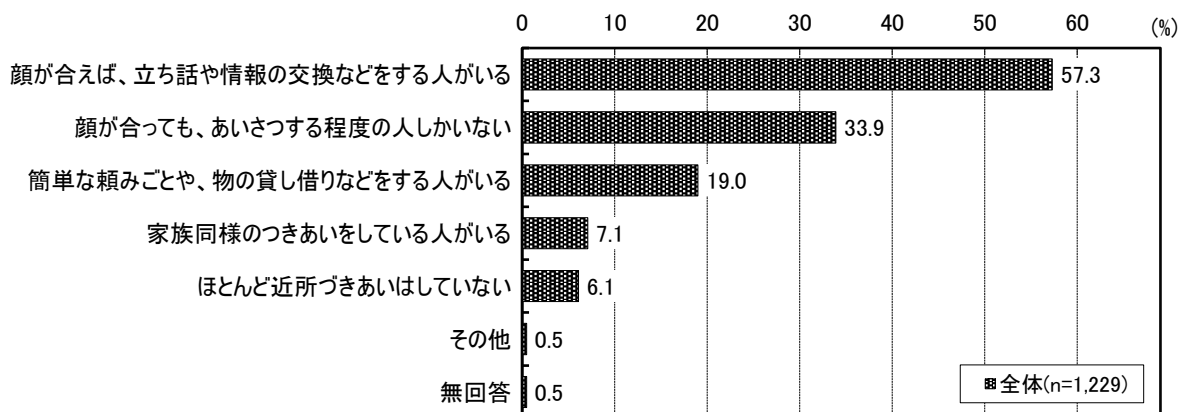
お住まいの地域について

問2 あなたにとって、「地域（自分のまち）」と感じるのはどれくらいの範囲ですか。（1つに○）



- ・「岸和田市全域」が31.0%と最も多く、「町会・自治会」が23.2%、「小学校区」が15.7%、「自宅の周辺（隣近所）」が14.1%、「中学校区」が10.3%となっています。
- ・年齢別にみると、「岸和田市全域」は18～39歳で36.4%と多く、「町会・自治会」は65歳以上で29.9%と多くなっています。

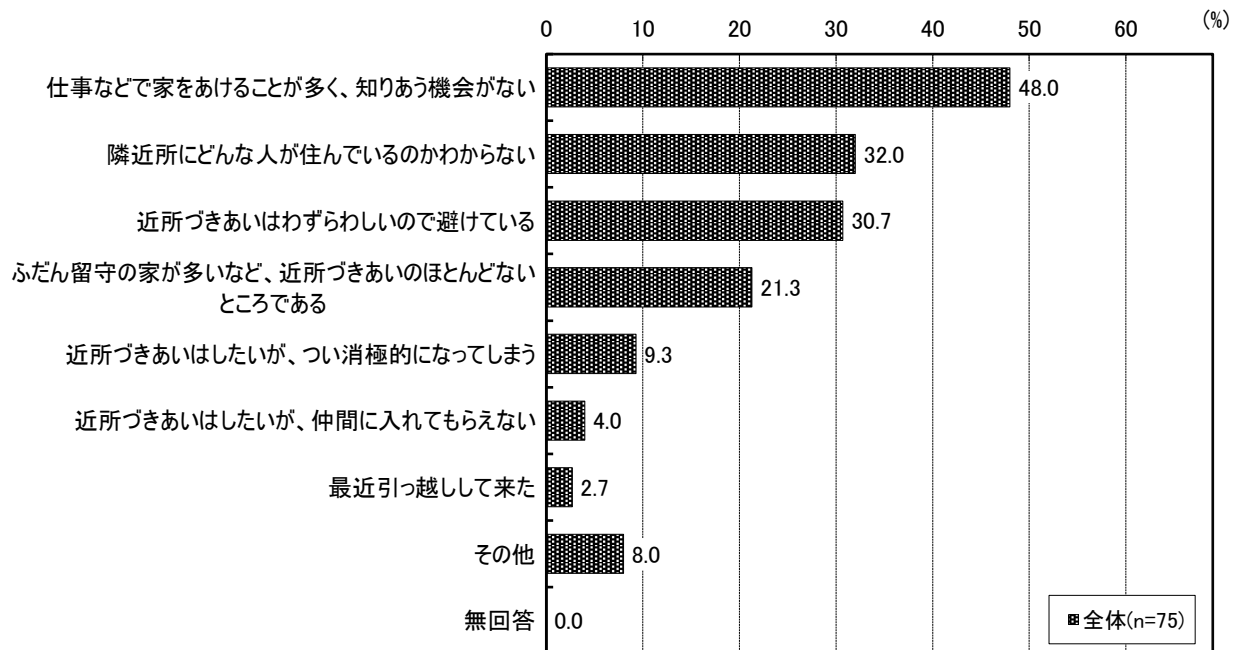
問3 あなたは、ご近所の人とどのようなつきあいをしていますか。（あてはまるものすべてに○）



- ・「顔が合えば、立ち話や情報の交換などをする人がいる」が57.3%と最も多く、「顔が合っても、あいさつする程度の人しかいない」が33.9%、「簡単な頼みごとや、物の貸し借りなどをする人がいる」が19.0%、「家族同様のつきあいをしている人がいる」が7.1%、「ほとんど近所づきあいはしていない」が6.1%となっています。
- ・性別にみると、「顔が合えば、立ち話や情報の交換などをする人がいる」は女性で62.0%と男性の52.8%より多く、「顔が合っても、あいさつする程度の人しかいない」は男性で37.1%と女性の31.3%より多くなっています。

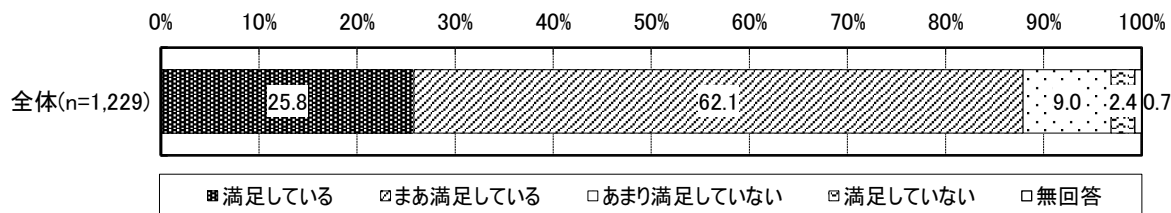
- ・年齢別にみると、「顔が合っても、あいさつする程度の人しかいない」は18～39歳で62.5%と多く、「顔が合えば、立ち話や情報の交換などをする人がいる」は65歳以上で68.0%と多くなっています。

問3-1 近所づきあいをされていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



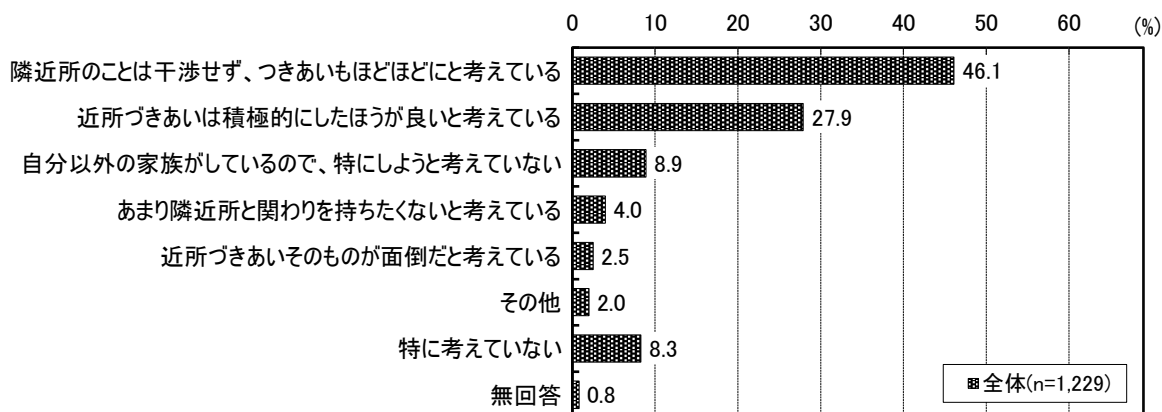
- ・「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が48.0%と最も多く、「隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない」が32.0%、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が30.7%、「ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいのほとんどないところである」が21.3%、「近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう」が9.3%となっています。
- ・性別にみると、「隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない」は男性で37.8%と女性の29.4%より多く、「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」は女性で52.9%と男性の48.6%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない」は65歳以上で45.0%と多く、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」は18～39歳で40.0%と多くなっています。

問4 現在のご近所とのつきあいに満足されていますか。(1つに○)



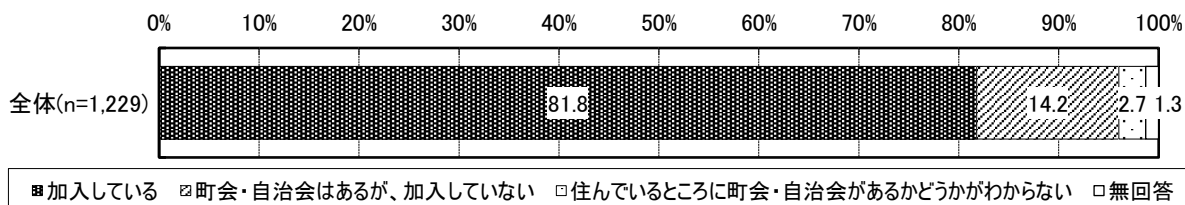
- ・満足している人（「満足している」＋「まあ満足している」）が87.9%と多く、満足していない人（「あまり満足していない」＋「満足していない」）は11.4%となっています。

問5 ご近所の人とのつきあいについて、どのように考えていますか。(1つに○)



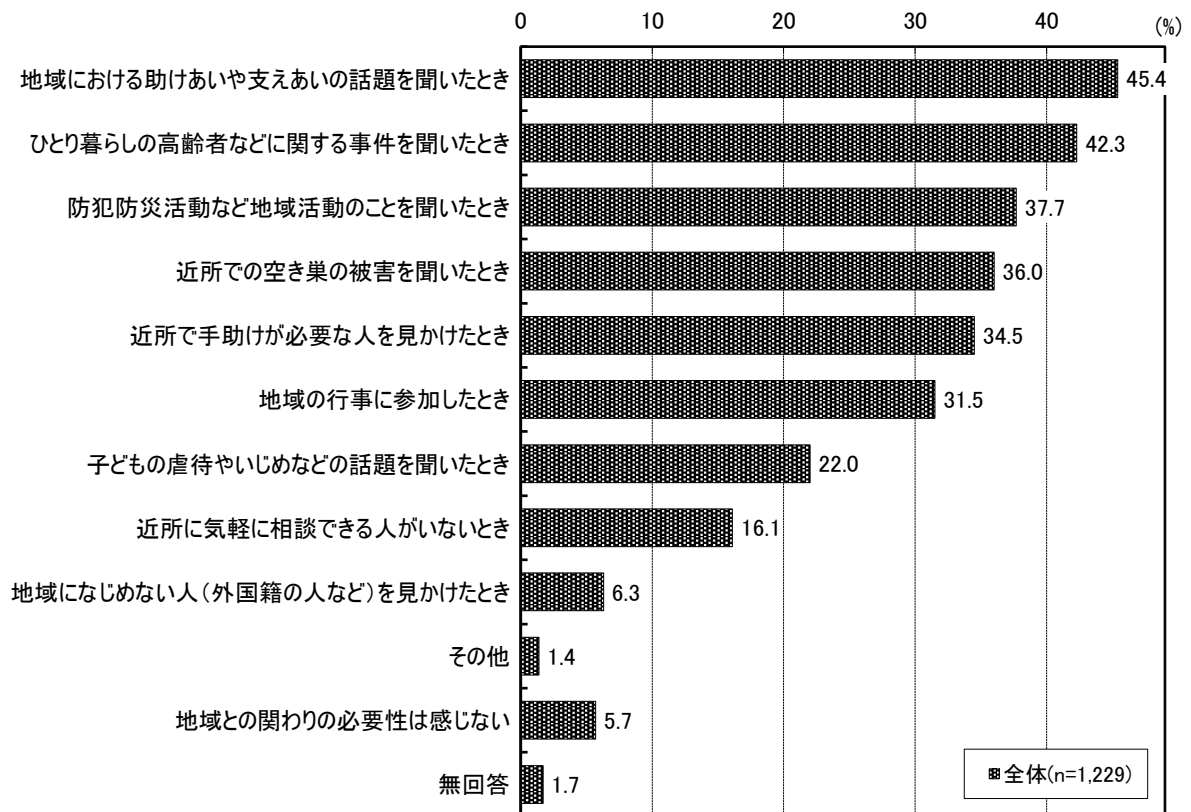
- ・「隣近所のことは干渉せず、つきあいもほどほどにと考えている」が46.1%と最も多く、「近所づきあいは積極的にしたほうが良いと考えている」が27.9%、「自分以外の家族がしているので、特にしようと考えていない」が8.9%、「特に考えていない」が8.3%、「あまり隣近所と関わりを持ちたくないと考えている」が4.0%となっています。
- ・性別にみると、「隣近所のことは干渉せず、つきあいもほどほどにと考えている」は女性52.1%と男性の39.9%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「近所づきあいは積極的にしたほうが良いと考えている」は65歳以上で31.8%と多くなっています。

問6 あなたのご家庭は、お住まいの町会・自治会に加入していますか。(1つに○)



- ・「加入している」が81.8%と大半を占め、「町会・自治会はあるが、加入していない」が14.2%となっています。
- ・年齢別にみると、「加入している」は65歳以上で85.2%と多く、「加入していない」は18～39歳で19.3%と多くなっています。

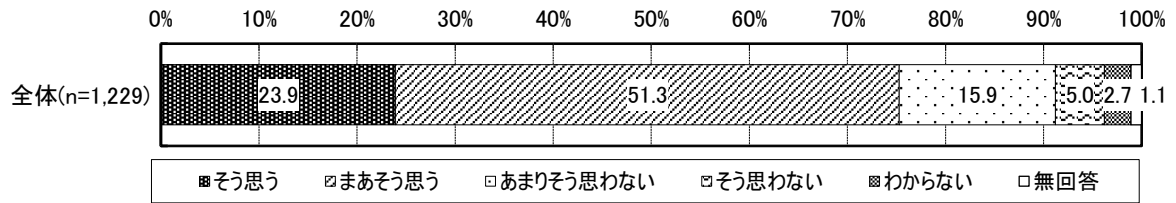
問7 あなたは、どのようなときに地域との関わりの必要性を感じますか。(あてはまるものすべてに○)



- ・「地域における助けあいや支えあいの話題を聞いたとき」が45.4%、「ひとり暮らしの高齢者などに関する事件を聞いたとき」が42.3%、「防犯防災活動など地域活動のことを聞いたとき」が37.7%、「近所での空き巣の被害を聞いたとき」が36.0%、「近所で手助けが必要な人を見かけたとき」が34.5%、「地域の行事に参加したとき」が31.5%の順となっています。
- ・性別にみると、「ひとり暮らしの高齢者などに関する事件を聞いたとき」は女性で46.8%と男性の37.1%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、65歳以上で「地域における助けあいや支えあいの話題を聞いたとき」「ひとり暮らしの高齢者などに関する事件を聞いたとき」がそれぞれ48.9%と多くなっています。

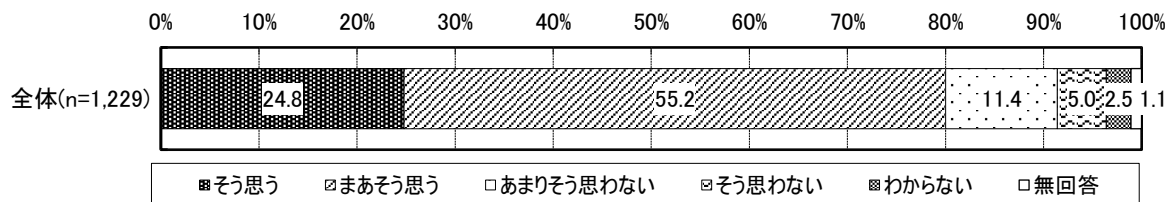
問8 お住まいの地域の環境についてどのようにお考えですか。①～⑬のそれぞれの項目ごとに番号に○をつけてください。

①「自分のまち」として地域に愛着を感じる



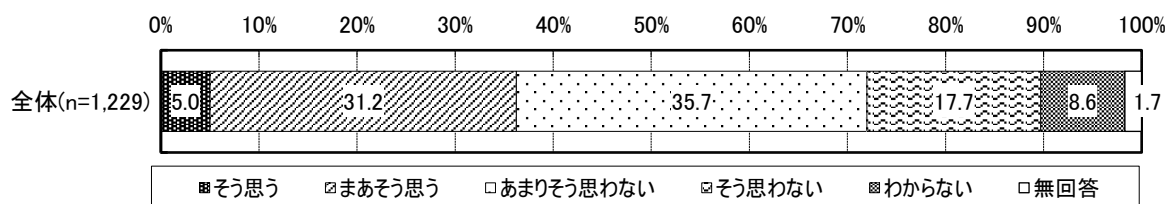
・賛同する人（「そう思う」＋「まあそう思う」）が75.2%と多く、賛同しない人（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は20.9%となっています。

②互いにあいさつを交わすなど近隣関係が良好だ



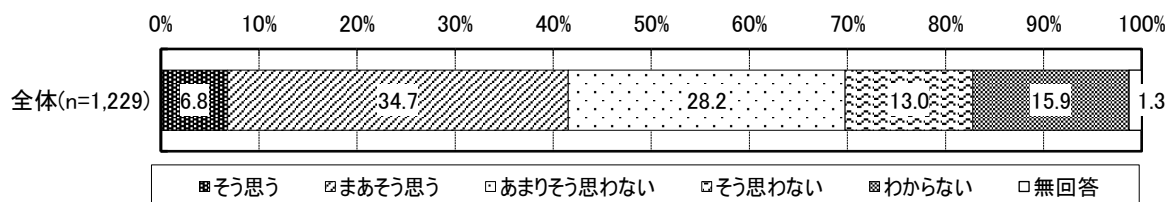
・賛同する人が80.0%と多く、賛同しない人は16.4%となっています。
 ・年齢別にみると、賛同する人は65歳以上で82.9%、40～64歳で79.0%、18～39歳で69.3%と、若年層ほど評価が低い傾向がみられます。

③住民による交流が活発だ



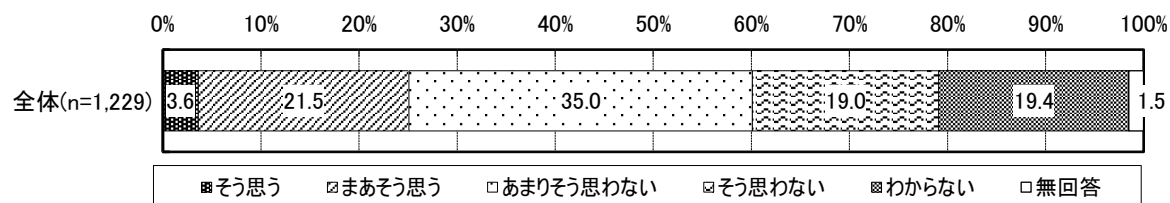
・賛同する人は36.2%にとどまっており、賛同しない人が53.4%と多くなっています。

④住民活動などの際に住民同士のまとまりがある



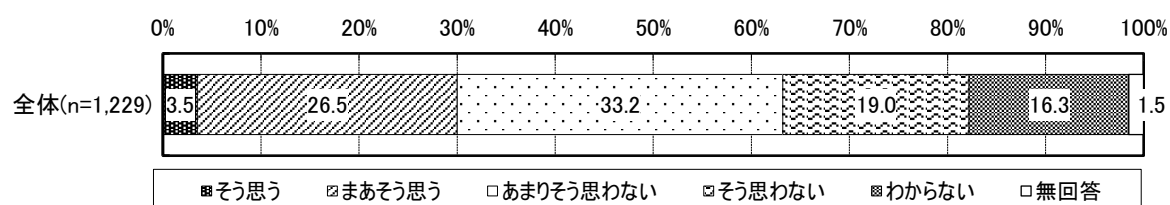
・賛同する人が41.5%、賛同しない人が41.2%と拮抗しており、「わからない」が15.9%と一定数みられます。
 ・年齢別にみると、賛同する人は65歳以上で46.6%とやや多く、18～39歳では35.2%と少なくなっており、若年層ほど評価が低い傾向がみられます。

⑤身近な助けあいやボランティア活動が活発だ



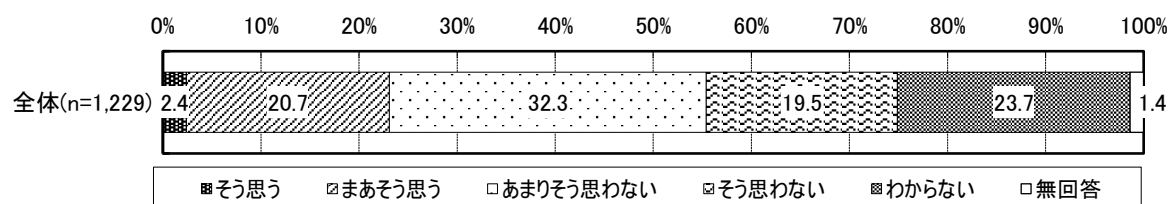
- ・ 賛同する人は25.1%にとどまり、賛同しない人が54.0%と多く、「わからない」が19.4%となっています。
- ・ 性別にみると、賛同しない人は男性で57.8%と女性の51.4%より多く、「わからない」は女性で22.8%と男性の15.5%より多くなっています。

⑥住民同士の交流や地域活動を行うための施設などが充実している



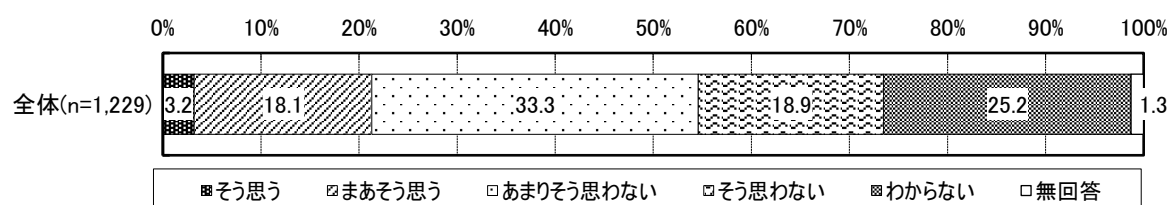
- ・ 賛同する人が30.0%に対し、賛同しない人は52.2%と多く、「わからない」が16.3%となっています。

⑦ひとり暮らしの人など、支援を必要とする方への地域の見守りや関心が強い



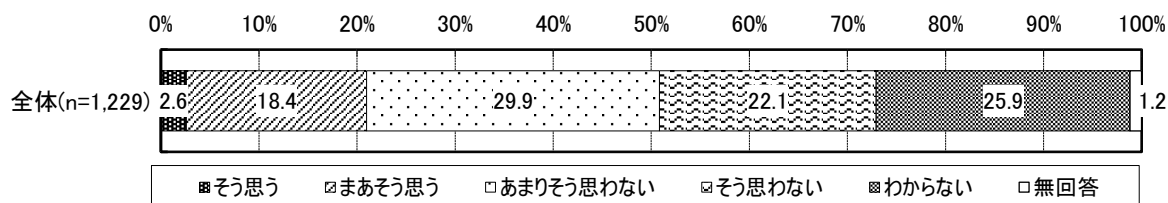
- ・ 賛同する人は23.1%にとどまり、賛同しない人が51.8%と多く、「わからない」が23.7%となっています。
- ・ 年齢別にみると、賛同する人は65歳以上で30.4%と多く、18～39歳では12.5%と少なくなっています。

⑧地域で互いに助け合う仕組みができている



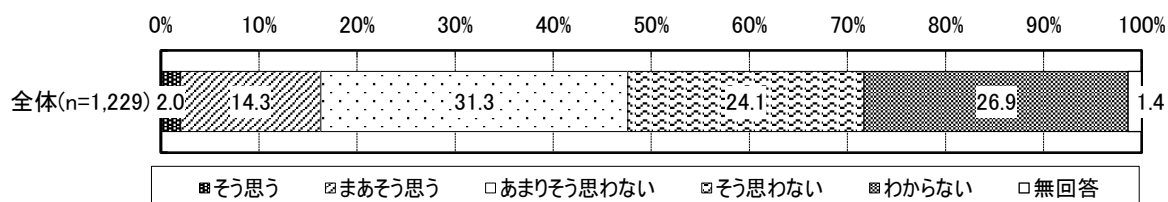
- ・ 賛同する人は21.3%にとどまり、賛同しない人が52.2%と多く、「わからない」が25.2%となっています。

⑨地域で抱える課題について住民同士で話しあいみんなで考えるような機会や場がある



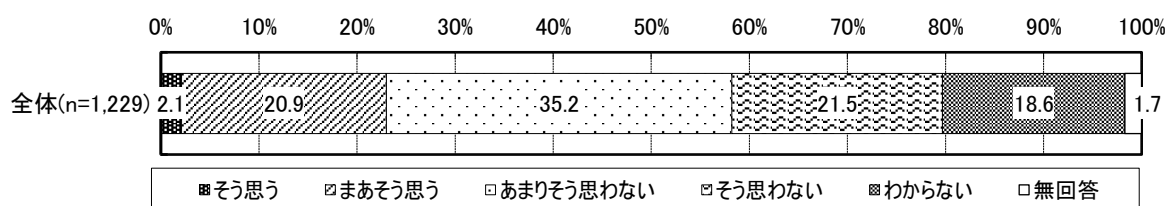
- ・ 賛同する人は21.0%にとどまり、賛同しない人が52.0%と多く、「わからない」が25.9%となっています。
- ・ 年齢別にみると、賛同する人は65歳以上で23.3%とやや多く、18～39歳では15.9%と少なくなっています。

⑩福祉活動やボランティア活動について学んだり参加・体験する機会が充実している



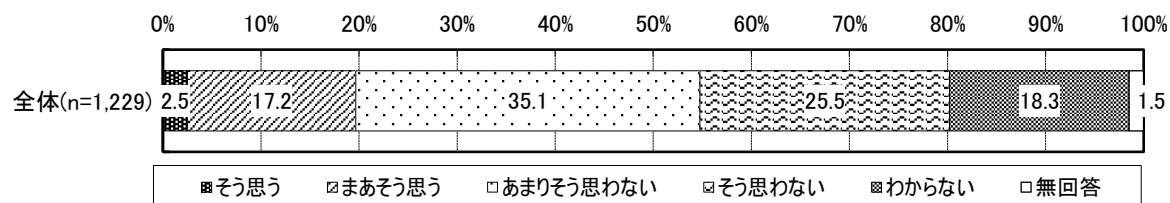
- ・ 賛同する人は16.3%と少なく、賛同しない人が55.4%と多く、「わからない」が26.9%となっています。
- ・ 性別にみると、賛同しない人は男性で58.3%と女性の53.2%より多く、「わからない」は女性で29.9%と男性の23.4%より多くなっています。
- ・ 年齢別にみると、「わからない」は18～39歳で38.6%と多く、若年層ほど認識が低い傾向がみられます。

⑪健康づくりや福祉に関する情報が得やすい



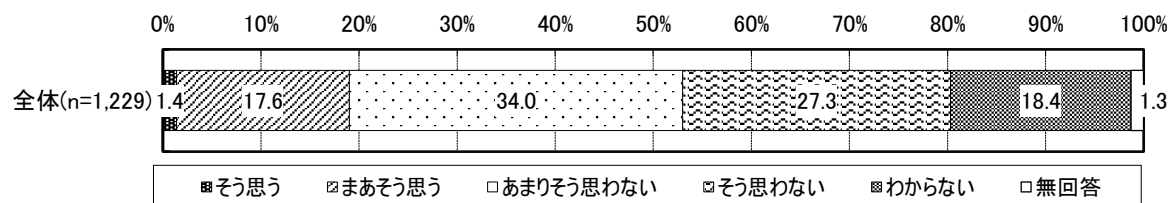
- ・ 賛同する人が23.0%に対し、賛同しない人が56.7%と多く、「わからない」が18.6%となっています。
- ・ 年齢別にみると、賛同する人は65歳以上で27.1%と多く、18～39歳では20.5%と少なくなっています。

⑫困ったときに身近な場所で相談がしやすい



- ・ 賛同する人は19.7%にとどまり、賛同しない人が60.6%と多くなっています。
- ・ 性別にみると、賛同しない人は男性で63.1%と女性の58.8%より多くなっています。

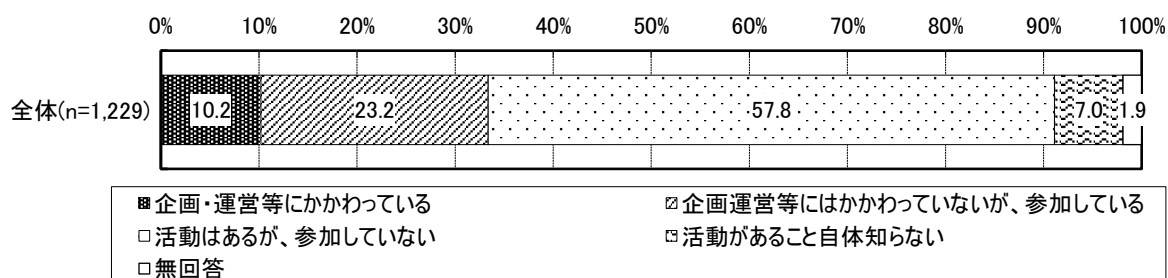
⑬公共施設や交通機関などが高齢者や障害のある人などの利用に配慮されている



- ・ 賛同する人は19.0%にとどまり、賛同しない人が61.3%と多くなっています。
- ・ 年齢別にみると、賛同する人は18～39歳で37.5%と多く、他の年代に比べて評価が高い傾向がみられます。

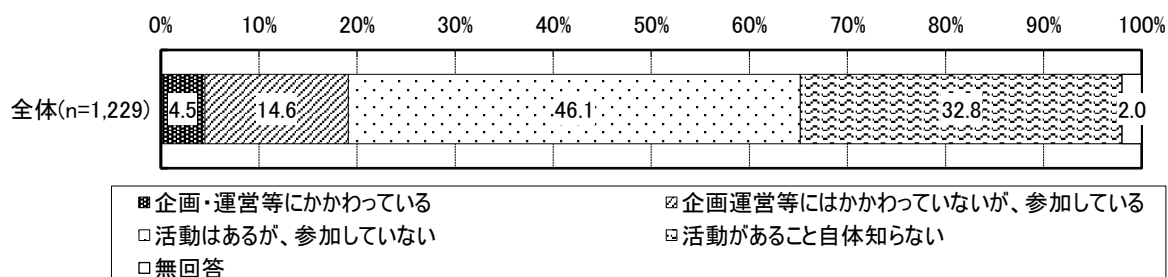
問9 ここ数年の間で地域の活動や行事にどの程度参加していますか。①～⑧のそれぞれの項目ごとに番号に○をつけてください。

①地域の祭りやイベントなど



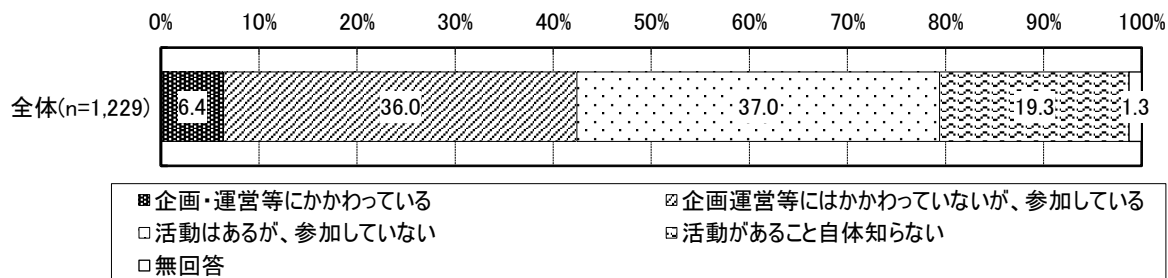
- ・「活動はあるが、参加していない」が57.8%と最も多く、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が23.2%、「企画・運営等にかかわっている」が10.2%、「活動があること自体知らない」が7.0%となっています。
- ・性別にみると、「企画・運営等にかかわっている」は男性で17.6%と女性の3.9%より多く、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」は女性で28.4%と男性の17.2%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「活動はあるが、参加していない」は65歳以上で63.1%と多く、「活動があること自体知らない」は18～39歳で12.5%とやや多くなっています。

②地域の防災訓練・防災活動など



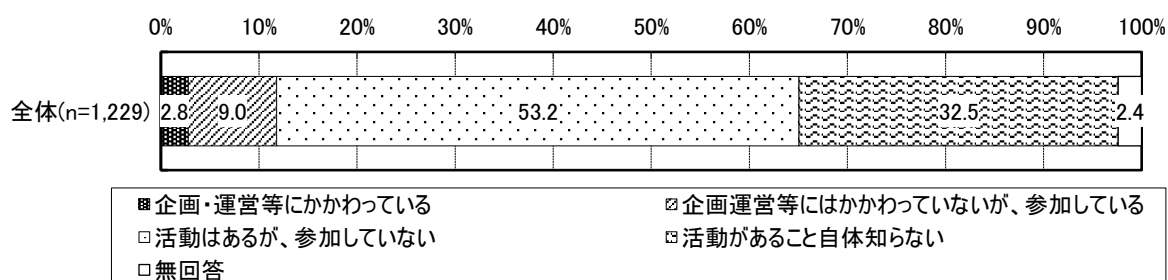
- ・「活動はあるが、参加していない」が46.1%、「活動があること自体知らない」が32.8%、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が14.6%となっています。
- ・性別にみると、「活動があること自体知らない」は女性で36.0%と男性の29.3%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「活動があること自体知らない」は18～39歳で47.7%と多くなっています。

③地域の清掃活動



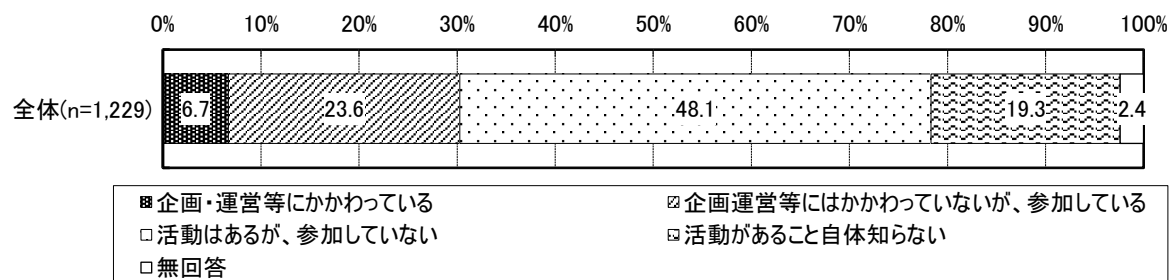
- ・「活動はあるが、参加していない」が37.0%、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が36.0%、「活動があること自体知らない」が19.3%となっています。
- ・性別にみると、「活動はあるが、参加していない」は女性で39.8%と男性の34.2%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」は65歳以上で41.0%と多く、「活動はあるが、参加していない」は18～39歳で48.9%と多くなっています。

④地域の防犯・交通安全活動



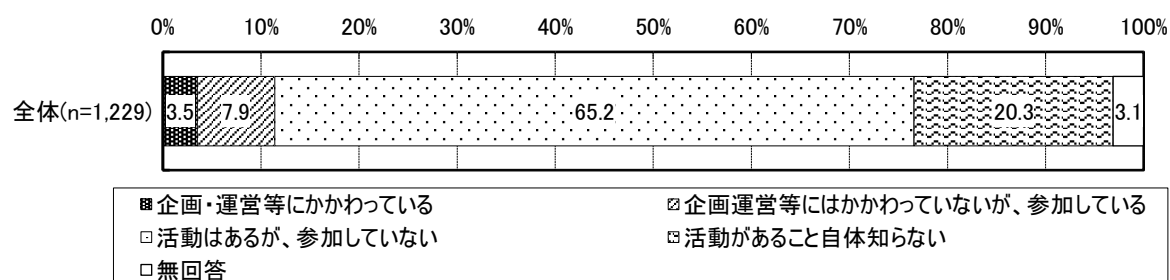
- ・「活動はあるが、参加していない」が53.2%と最も多く、「活動があること自体知らない」が32.5%、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が9.0%となっています。
- ・性別にみると、「活動があること自体知らない」は女性で35.5%と男性の30.0%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「活動があること自体知らない」は18～39歳で40.9%と多くなっています。

⑤その他の町会・自治会活動



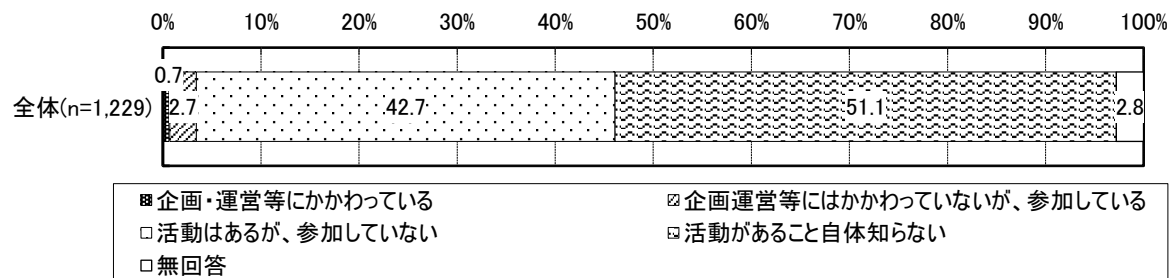
- ・「活動はあるが、参加していない」が48.1%と最も多く、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が23.6%、「活動があること自体知らない」が19.3%となっています。
- ・性別にみると、「企画・運営等にかかわっている」は男性で10.1%と女性の3.3%よりやや多くなっています。
- ・年齢別にみると、「活動はあるが、参加していない」は18～39歳で55.7%と多くなっています。

⑥子ども会や青少年育成活動



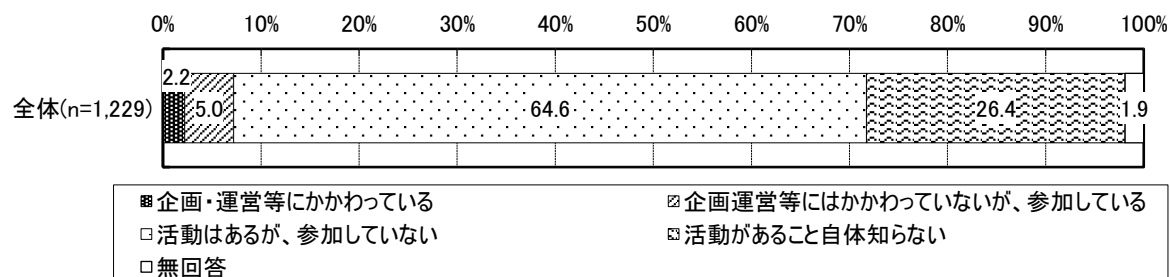
- ・「活動はあるが、参加していない」が65.2%と最も多く、「活動があること自体知らない」が20.3%、「企画運営等にはかかわっていないが、参加している」が7.9%となっています。
- ・年齢別にみると、「活動があること自体知らない」は18～39歳で30.7%と多くなっています。

⑦子どもの居場所（子ども食堂など）



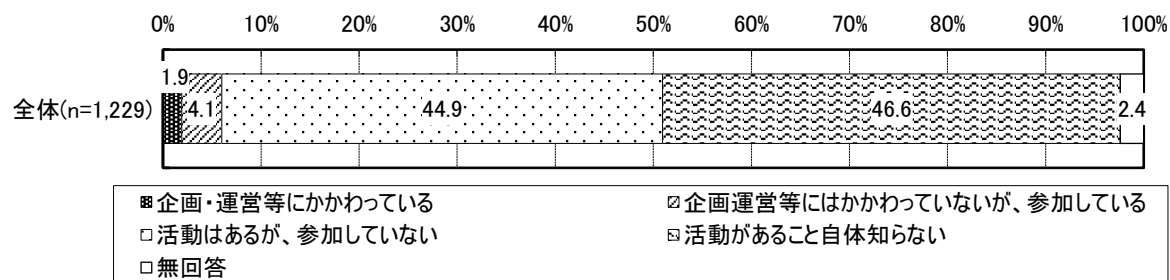
- ・「活動があること自体知らない」が51.1%と最も多く、「活動はあるが、参加していない」が42.7%となっています。
- ・年齢別にみると、「活動があること自体知らない」は18～39歳で59.1%と多くなっています。

⑧老人クラブ活動



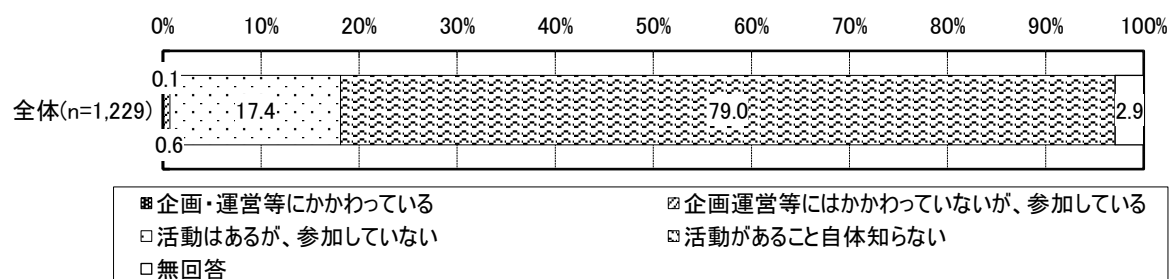
- ・「活動はあるが、参加していない」が64.6%と最も多く、「活動があること自体知らない」が26.4%となっています。

⑨地区福祉委員会活動



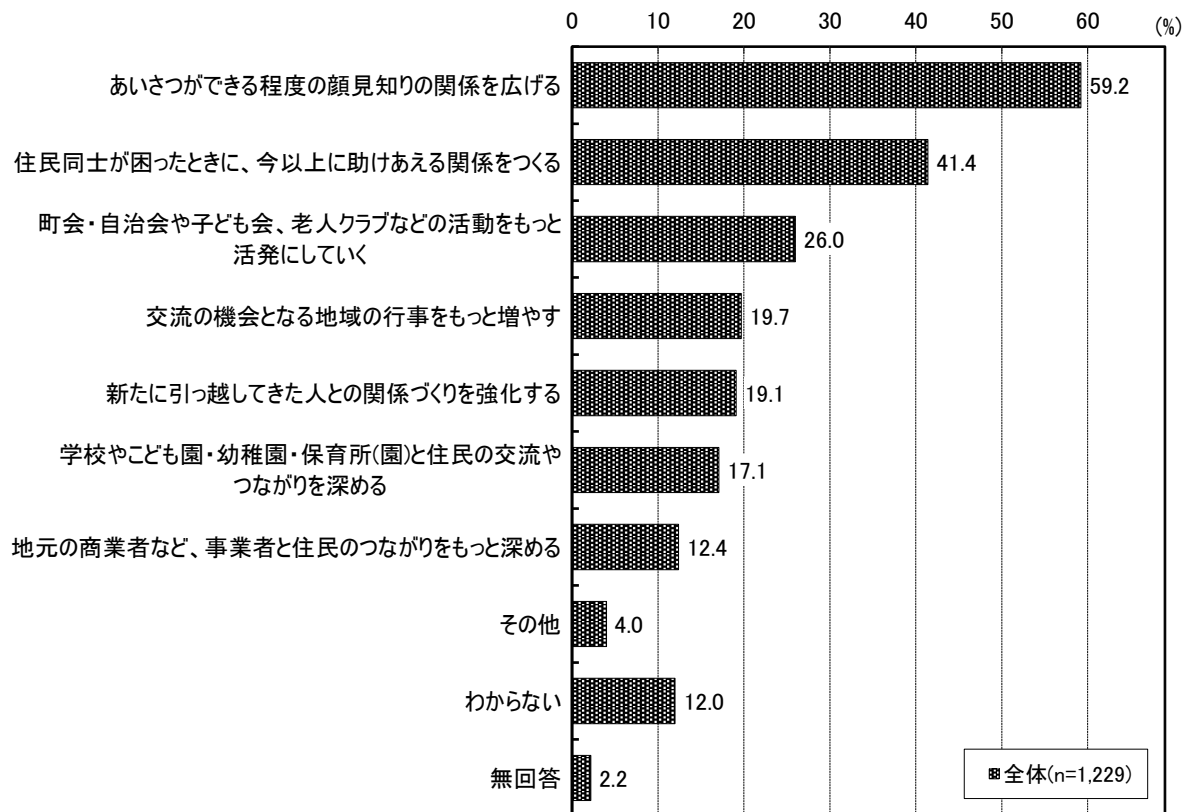
- ・「活動があること自体知らない」が46.6%、「活動はあるが、参加していない」が44.9%とほぼ同程度となっています。
- ・性別にみると、「活動があること自体知らない」は女性で51.2%と男性の41.7%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「活動があること自体知らない」は18～39歳で64.8%と多くなっています。

⑩外国籍の人と関わる活動



- ・「活動があること自体知らない」が79.0%と非常に多く、「活動はあるが、参加していない」が17.4%となっています。

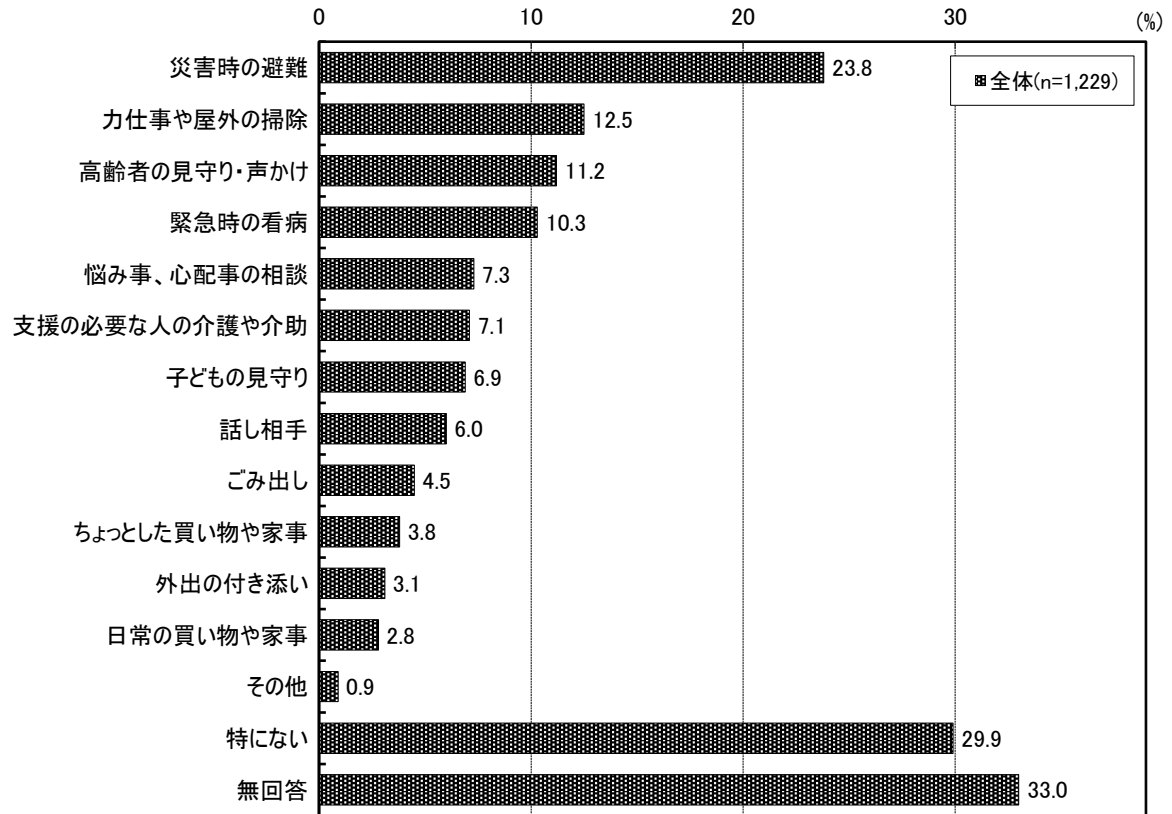
問10 地域の活動や行事がもっと活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



- ・「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が59.2%と最も多く、「住民同士が困ったときに、今以上に助けあえる関係をつくる」が41.4%、「町会・自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていく」が26.0%、「交流の機会となる地域の行事をもっと増やす」が19.7%、「新たに引っ越してきた人との関係づくりを強化する」が19.1%、「学校やこども園・幼稚園・保育所(園)と住民の交流やつながりを深める」が17.1%の順となっています。
- ・年齢別にみると、「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」は65歳以上で63.6%と多く、「学校やこども園・幼稚園・保育所(園)と住民の交流やつながりを深める」は18～39歳で29.5%と多くなっています。

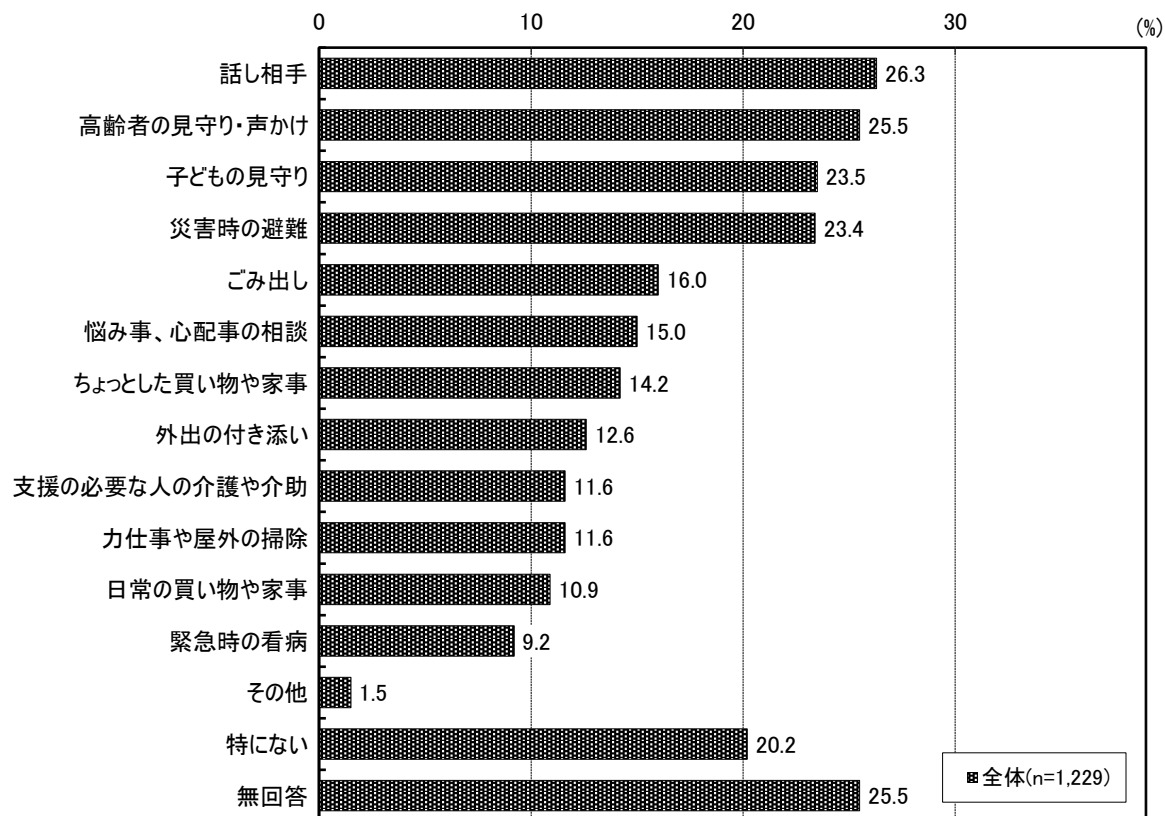
問11 今後、ご近所とのおつきあいのなかで、あなたが「手助けをしてほしい」と思うことがありますか。また逆に、あなたご自身ができそうなこと、やってみたいと思うことがありますか。(①②のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

①手助けをしてほしいこと



- ・「特にない」が29.9%と最も多く、次いで「災害時の避難」が23.8%、「力仕事や屋外の掃除」が12.5%、「高齢者の見守り・声かけ」が11.2%、「緊急時の看病」が10.3%、「悩み事、心配事の相談」が7.3%となっています。
- ・性別にみると、「災害時の避難」は女性で26.4%と男性の20.8%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、18～39歳で「災害時の避難」が28.4%、「子どもの見守り」が19.3%と多くなっています。

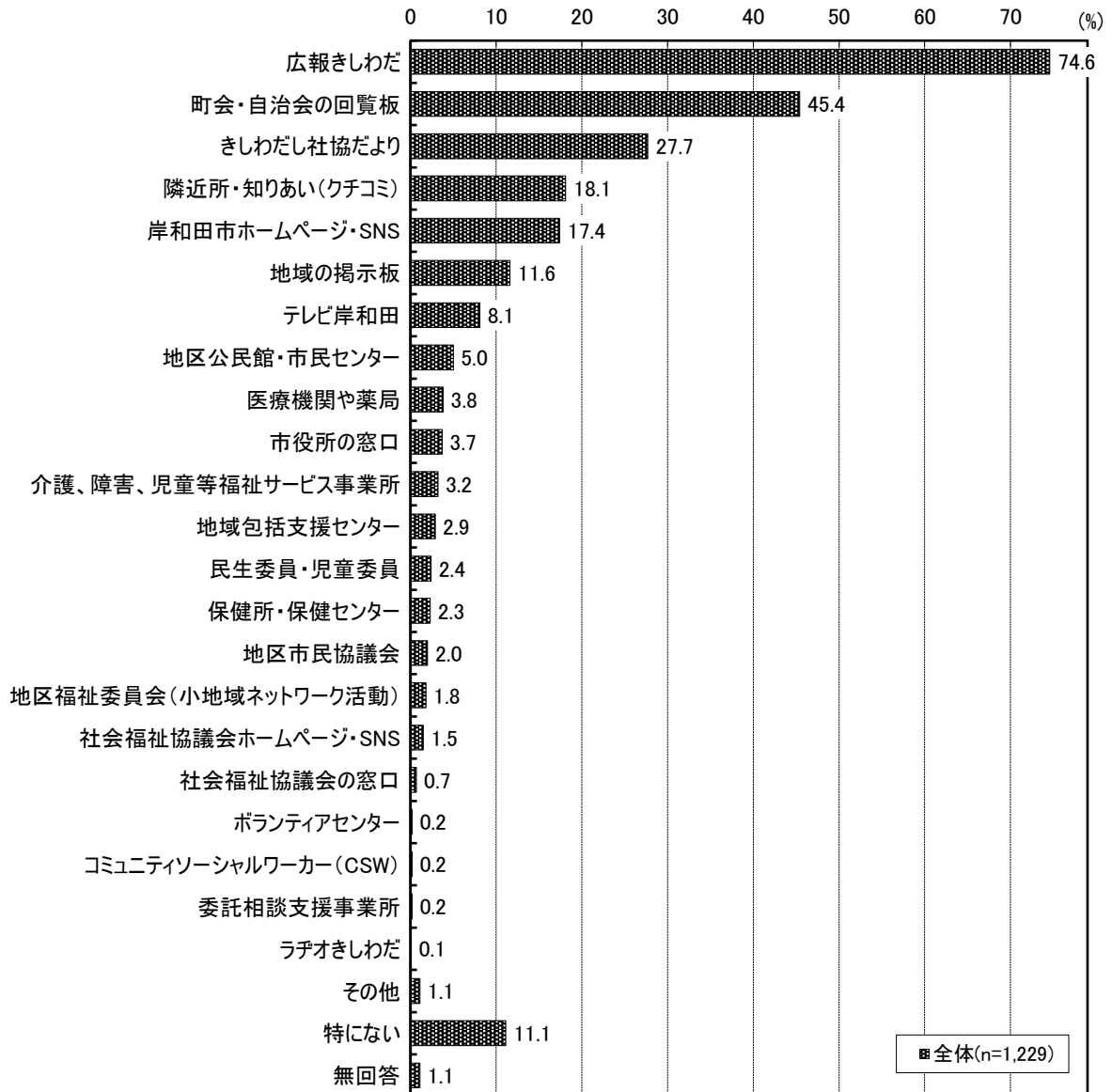
②できそうなこと、やってみたいこと



- ・「話し相手」が26.3%と最も多く、次いで「高齢者の見守り・声かけ」が25.5%、「子どもの見守り」が23.5%、「災害時の避難」が23.4%、「特にない」が20.2%、「ごみ出し」が16.0%の順となっています。
- ・性別にみると、「話し相手」は女性で30.5%と男性の21.8%より多く、「力仕事や屋外の掃除」は男性で16.6%と女性の7.1%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「子どもの見守り」は40～64歳で27.0%と多く、「災害時の避難」は18～39歳で26.1%と多くなっています。

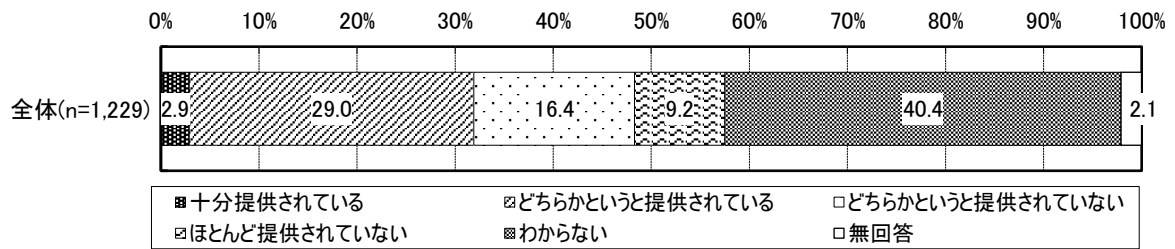
生活する上での課題や福祉制度・サービスについて

問12 福祉サービスや福祉活動に関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)



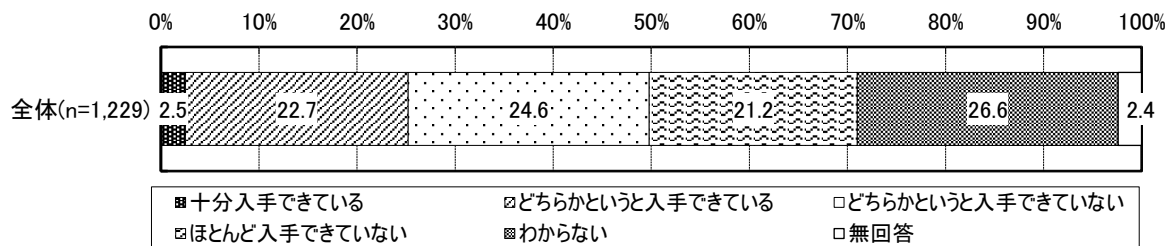
- ・「広報きしわだ」が74.6%と最も多く、次いで「町会・自治会の回覧板」が45.4%、「きしわだし社協だより」が27.7%、「隣近所・知りあい(クチコミ)」が18.1%、「岸和田市ホームページ・SNS」が17.4%、「地域の掲示板」が11.6%となっています。また、「特にない」が11.1%みられます。
- ・性別にみると、「広報きしわだ」は女性で78.0%と男性の71.5%より多く、「隣近所・知りあい(クチコミ)」も女性で21.6%と男性の14.1%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、65歳以上で「広報きしわだ」が81.3%、「町会・自治会の回覧板」が56.2%、「きしわだし社協だより」が35.2%と多世代より多く見られます。また、「特にない」は18～39歳で37.5%と際立って多くなっています。また、「岸和田市ホームページ・SNS」は40～64歳で21.5%と比較的多くなっています。

問13 あなたは、本市での福祉サービスや福祉活動の情報提供について、どのように感じていますか。(1つに○)



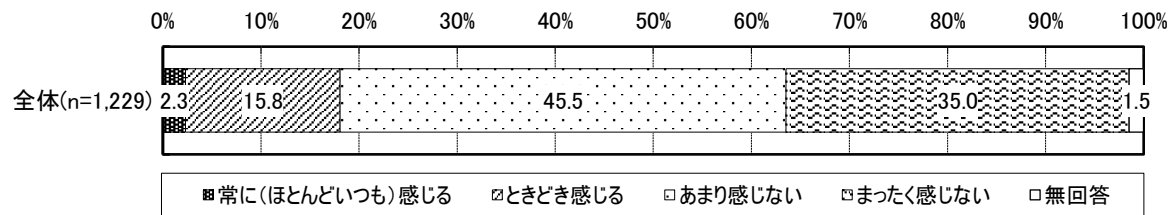
- ・提供されていると感じている人（「十分提供されている」＋「どちらかという提供されている」）が31.9%、提供されていないと感じている人（「どちらかという提供されていない」＋「ほとんど提供されていない」）が25.6%「わからない」が40.4%となっています。
- ・性別にみると、「わからない」は女性で42.6%と男性の38.6%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、提供されていると感じている人は65歳以上で35.6%とやや多く、18～39歳では25.0%と少なくなっています。一方、「わからない」は18～39歳で48.9%と多く、若年層ほど情報提供の実感を持ちにくい傾向がみられます。

問14 あなたは、福祉に関するさまざまな相談機関やその窓口の場所などの必要な福祉サービス情報を、十分入手できていますか。(1つに○)



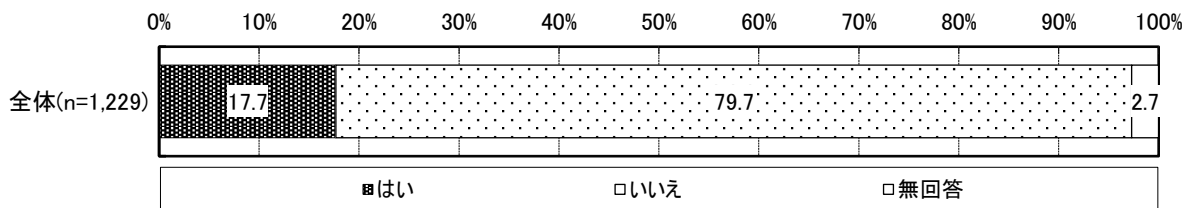
- ・入手できているという人（「十分入手できている」＋「どちらかという入手できている」）は25.2%で、入手できていないという人（「どちらかという入手できていない」＋「ほとんど入手できていない」）が45.8%、「わからない」が26.6%となっています。
- ・年齢別にみると、入手できているという人は65歳以上で30.0%と比較的多く、18～39歳では21.6%と少なくなっています。一方、「わからない」は18～39歳で36.4%と多く、若年層ほど相談窓口や必要な情報の所在を把握しにくい状況がうかがえます。

問15 あなたは、日頃、どの程度「孤独である」（人とのつながりがなく、さみしい）と感じていますか。（1つに○）



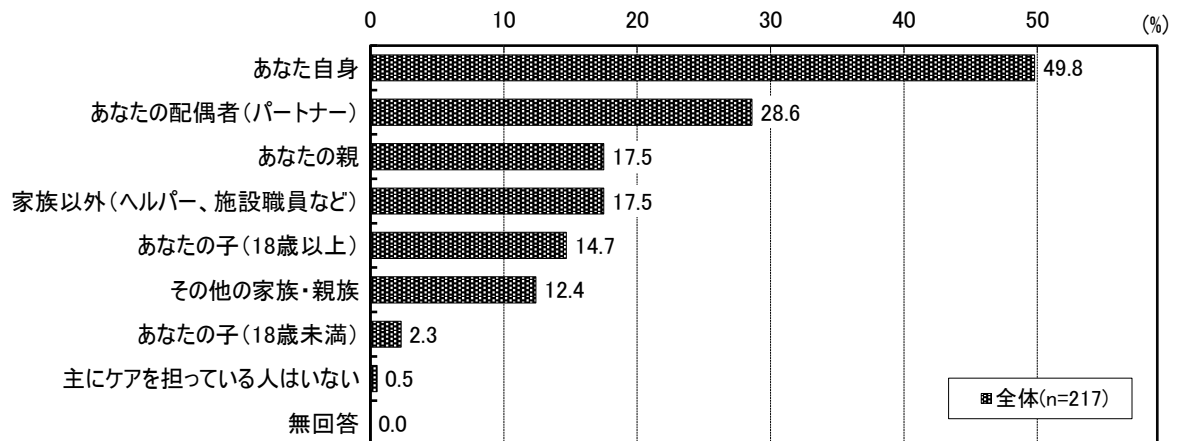
- ・「常に（ほとんどいつも）感じる」が2.3%、「ときどき感じる」が15.8%と、合わせて孤独であると感じている人は18.1%となっています。
- ・年齢別にみると、孤独であると感じている人は18～39歳で23.8%、40～64歳で18.1%、65歳以上で17.3%と、若年層で孤独感がやや強い傾向がみられます。

問16 あなたの世帯では、ご家族（あなたを含む）が、病気、障害、高齢、幼いきょうだいの世話などを理由に、日常的なケア（身の回りの世話、家事、通院の付き添い、感情面のサポートなど）を必要としていますか。（1つに○）



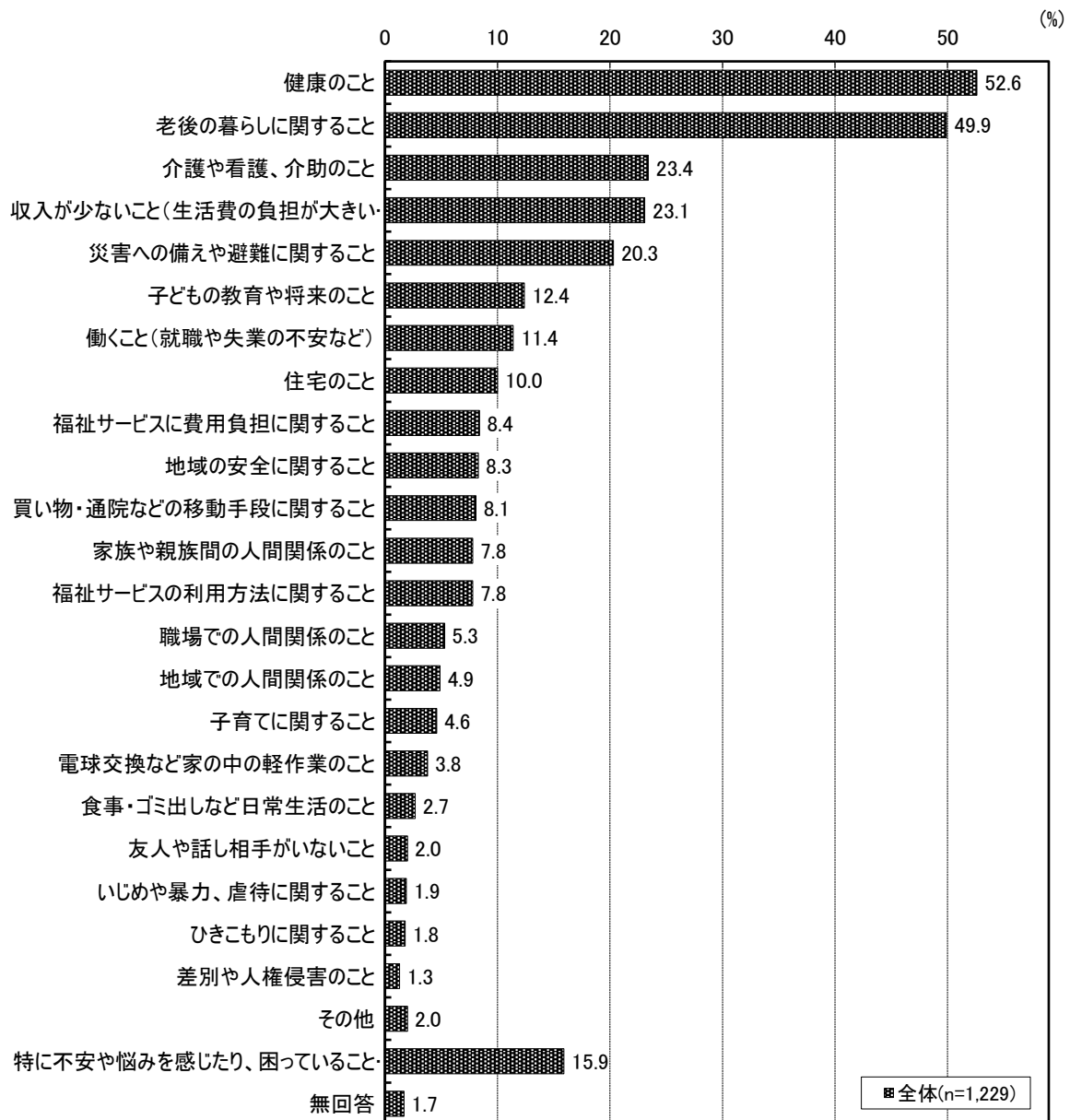
- ・「はい」と答えた人は17.7%となっています。
- ・年齢別にみると、「はい」と答えた人は40～64歳で18.9%と若干多く、18～39歳では14.8%とやや少なくなっています。

問16-1 現在、そのケアを主に担っているのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)



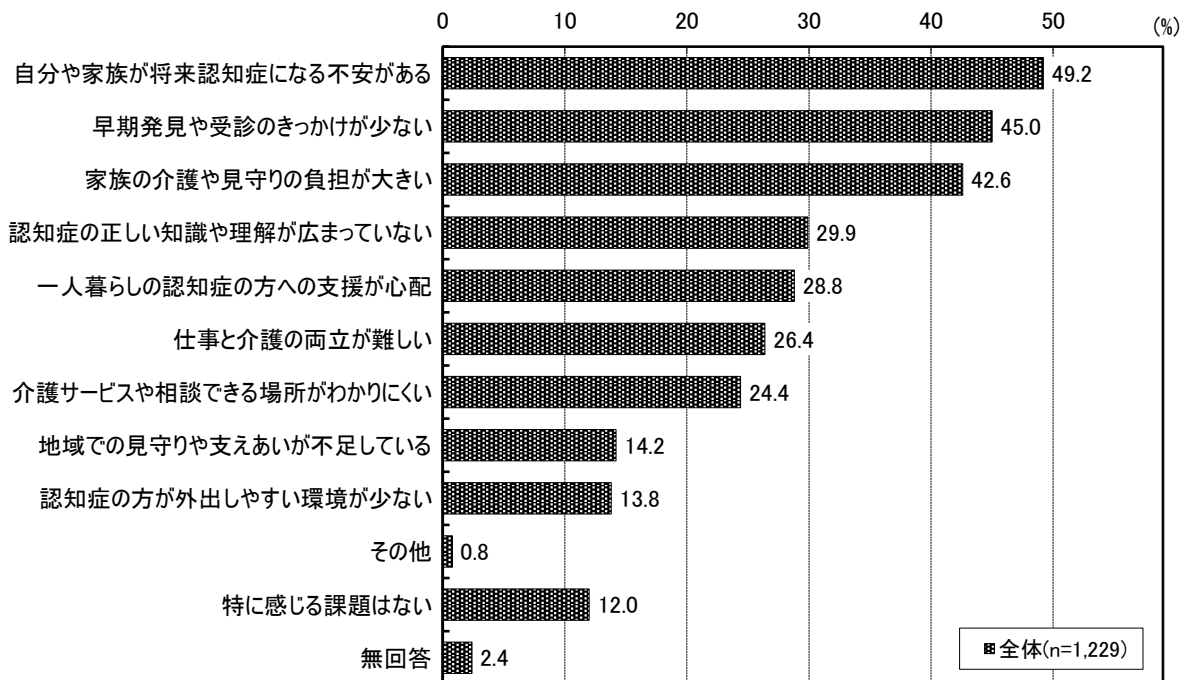
- ・「あなた自身」が49.8%と最も多く、次いで「あなたの配偶者（パートナー）」が28.6%、「あなたの親」が17.5%、「家族以外（ヘルパー、施設職員など）」が17.5%、「あなたの子（18歳以上）」が14.7%、「その他の家族・親族」が12.4%となっています。
- ・性別にみると、「あなた自身」は女性で55.4%と男性の42.2%より多く、「あなたの配偶者（パートナー）」は男性で33.3%と女性の25.6%より多くなっています。また、「家族以外（ヘルパー、施設職員など）」は女性で20.7%と男性の14.4%より多く、「あなたの子（18歳以上）」も女性で17.4%と男性の11.1%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「あなた自身」は18～39歳で53.8%、40～64歳で52.3%と多くなっています。「あなたの親」は18～39歳で46.2%と多く、65歳以上では「あなたの配偶者（パートナー）」が41.7%、「あなたの子（18歳以上）」が25.0%と多くなっています。

問17 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)



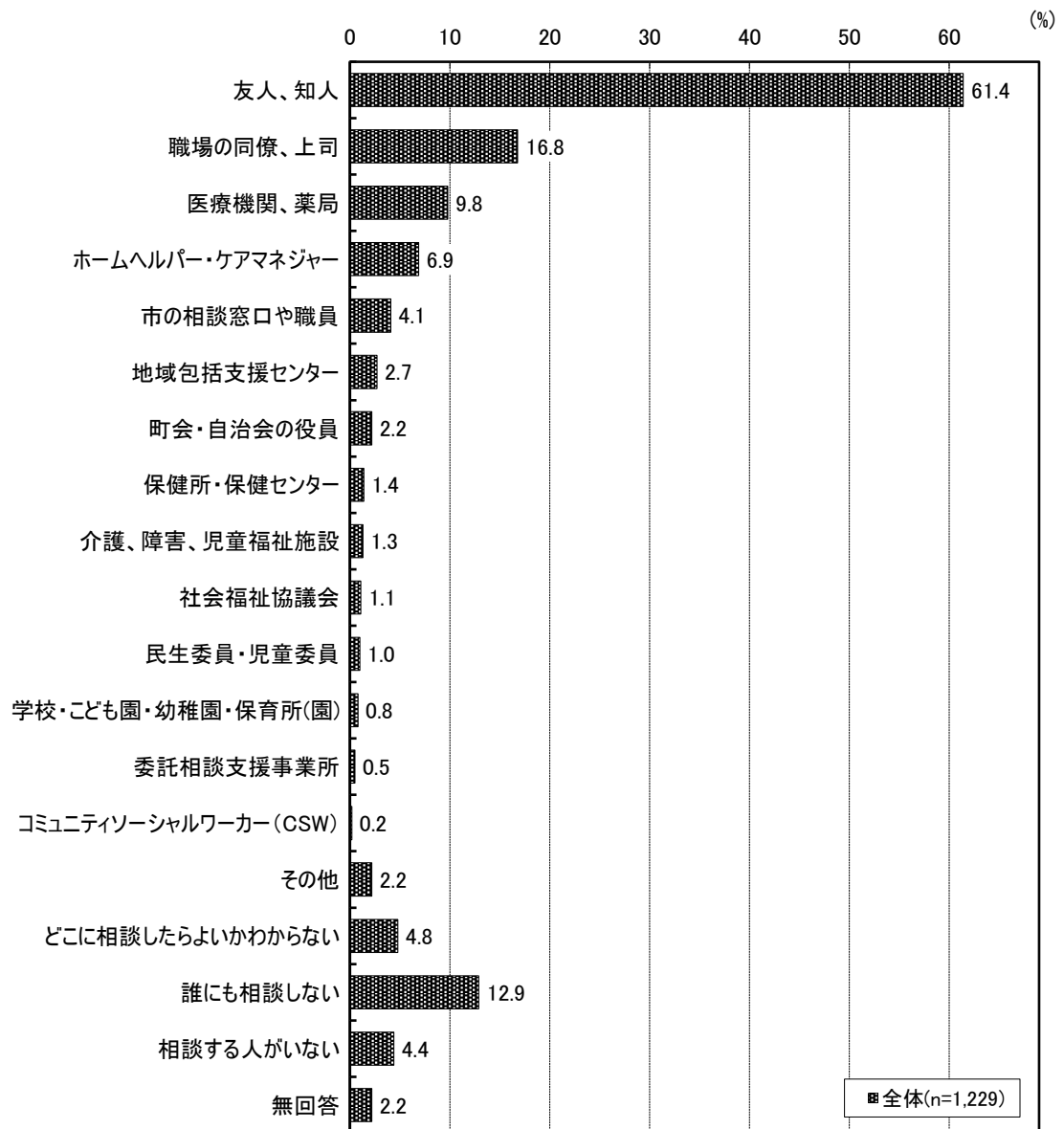
- ・「健康のこと」が52.6%と最も多く、次いで「老後の暮らしに関すること」が49.9%、「介護や看護、介助のこと」が23.4%、「収入が少ないこと（生活費の負担が大きいこと）」が23.1%、「災害への備えや避難に関すること」が20.3%、「特に不安や悩みを感じたり、困っていることはない」が15.9%の順となっています。このほか、「子どもの教育や将来のこと」が12.4%、「働くこと（就職や失業の不安など）」が11.4%、「住宅のこと」が10.0%で続いています。
- ・年齢別にみると、「健康のこと」は65歳以上で61.5%と多く、「老後の暮らしに関すること」は40～64歳で53.6%と多くなっています。「働くこと（就職や失業の不安など）」は18～39歳で27.3%と多く、「子どもの教育や将来のこと」は40～64歳で22.2%と多くなっています。また、「災害への備えや避難に関すること」は40～64歳で22.8%、18～39歳で22.7%と、現役世代でも防災面への不安が目立っています。

問18 認知症について、あなたが関心をもっていることや課題だと感じることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)



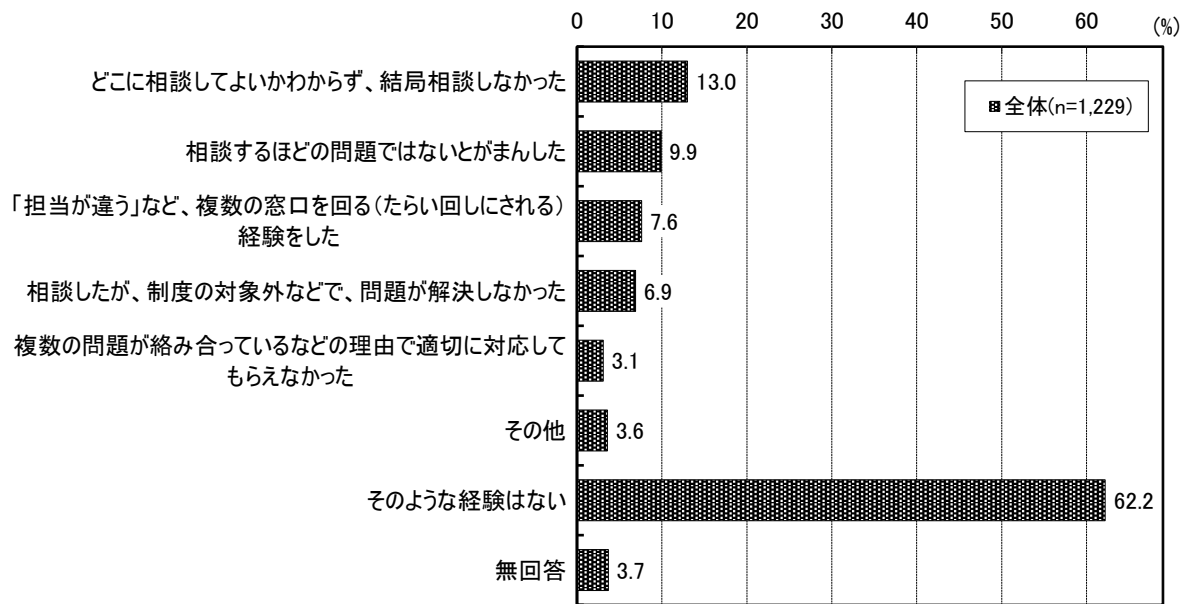
- ・「自分や家族が将来認知症になる不安がある」が49.2%と最も多く、次いで「早期発見や受診のきっかけが少ない」が45.0%、「家族の介護や見守りの負担が大きい」が42.6%、「認知症の正しい知識や理解が広まっていない」が29.9%、「一人暮らしの認知症の方への支援が心配」が28.8%、「仕事と介護の両立が難しい」が26.4%、「介護サービスや相談できる場所がわかりにくい」が24.4%の順となっています。
- ・性別にみると、「自分や家族が将来認知症になる不安がある」は女性で52.9%と男性の44.6%より多く、「早期発見や受診のきっかけが少ない」も女性で48.7%と男性の41.3%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「家族の介護や見守りの負担が大きい」は40～64歳で54.5%と多く、「仕事と介護の両立が難しい」も40～64歳で41.3%、18～39歳で37.5%と多くなっています。「自分や家族が将来認知症になる不安がある」は65歳以上で51.2%と多く、「早期発見や受診のきっかけが少ない」は40～64歳で47.8%と多くなっています。

問19 悩みや不安などがあるときに、家族や親戚以外のどんな人（場所）に相談をされていますか。（あてはまるものすべてに○）



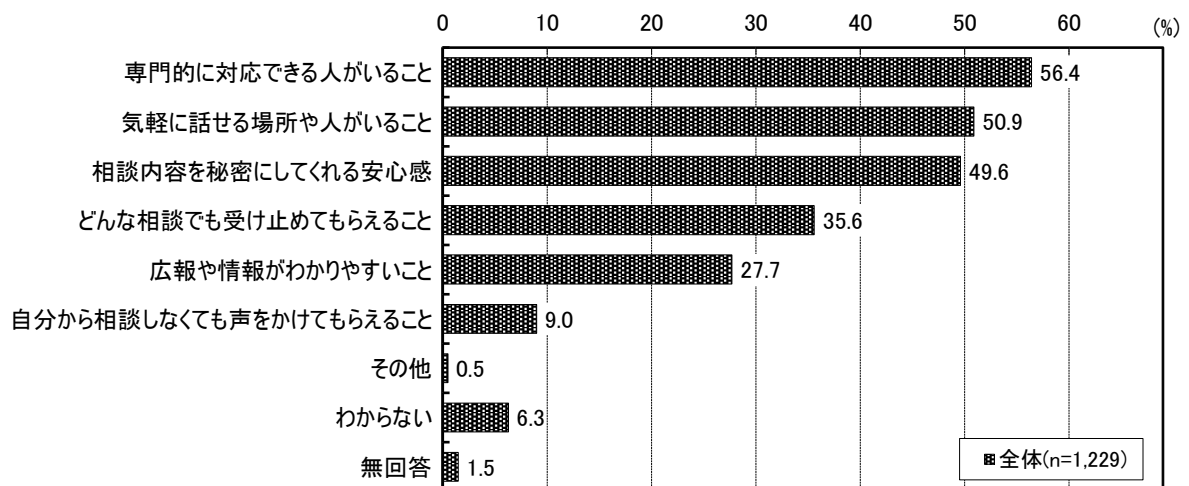
- ・「友人、知人」が61.4%と非常に多く、次いで「職場の同僚、上司」が16.8%、「誰にも相談しない」が12.9%、「医療機関、薬局」が9.8%、「ホームヘルパー・ケアマネジャー」が6.9%の順となっています。
- ・性別にみると、「友人、知人」は女性で69.6%と男性の52.5%より多く、「誰にも相談しない」は男性で17.0%と女性の9.5%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「友人、知人」は40～64歳で65.8%、18～39歳で64.8%と多く、「職場の同僚、上司」も40～64歳で27.7%、18～39歳で26.1%と多く見られます。65歳以上では「誰にも相談しない」は15.5%、「医療機関、薬局」は13.6%と多く見られます。

問20 あなたは、過去に生活の困りごとについて、どこか（行政窓口、専門機関、知人など）に相談しようとした際、以下のような経験はありますか。（あてはまるものすべてに○）



・「そのような経験はない」が62.2%と最も多く、困難な経験としては「どこに相談してよいかわからず、結局相談しなかった」が13.0%、「相談するほどの問題ではないとがまんした」が9.9%などとなっています。

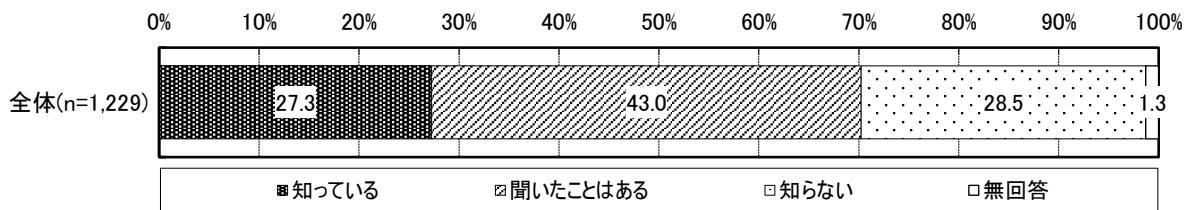
問21 困っている人が相談しやすい地域にするために、どんなことが大切だと思いますか。（大切と思うものを3つまで選んで○）



・「専門的に対応できる人がいること」が56.4%と最も多く、次いで「気軽に話せる場所や人がいること」が50.9%、「相談内容を秘密にしてくれる安心感」が49.6%、「どんな相談でも受け止めてもらえること」が35.6%、「広報や情報がわかりやすいこと」が27.7%の順となっています。

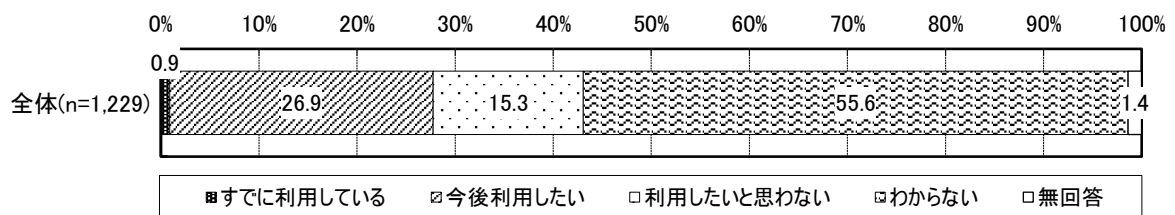
・性別にみると、「相談内容を秘密にしてくれる安心感」は女性で52.9%と男性の45.7%より多く、「どんな相談でも受け止めてもらえること」も女性で38.6%と男性の31.6%より多く、女性の方が相談の安心感を重視する傾向がみられます。

問22 「成年後見制度」について、どの程度知っていますか。(1つに○)



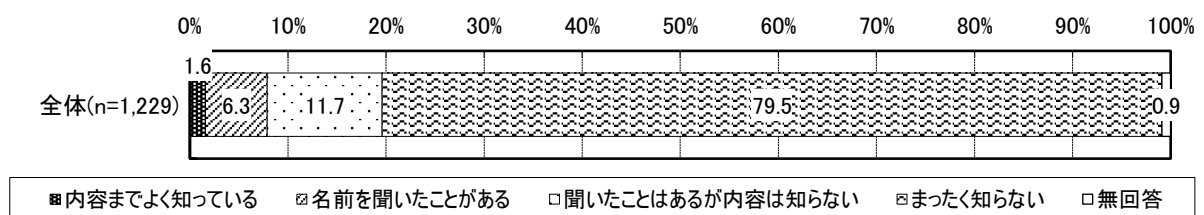
- ・「聞いたことはある」が43.0%、「知らない」が28.5%、「知っている」が27.3%となっています。
- ・性別にみると、「知っている」は女性で29.6%と男性の24.9%より多く、「聞いたことはある」も女性で47.0%と男性の38.6%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「知っている」は65歳以上で28.6%、40～64歳で27.0%とほぼ同程度で、18～39歳では20.5%と少なく、「知らない」が44.3%と多く見られます。

問23 自分自身や身近な人の判断能力が衰えた時、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つに○)



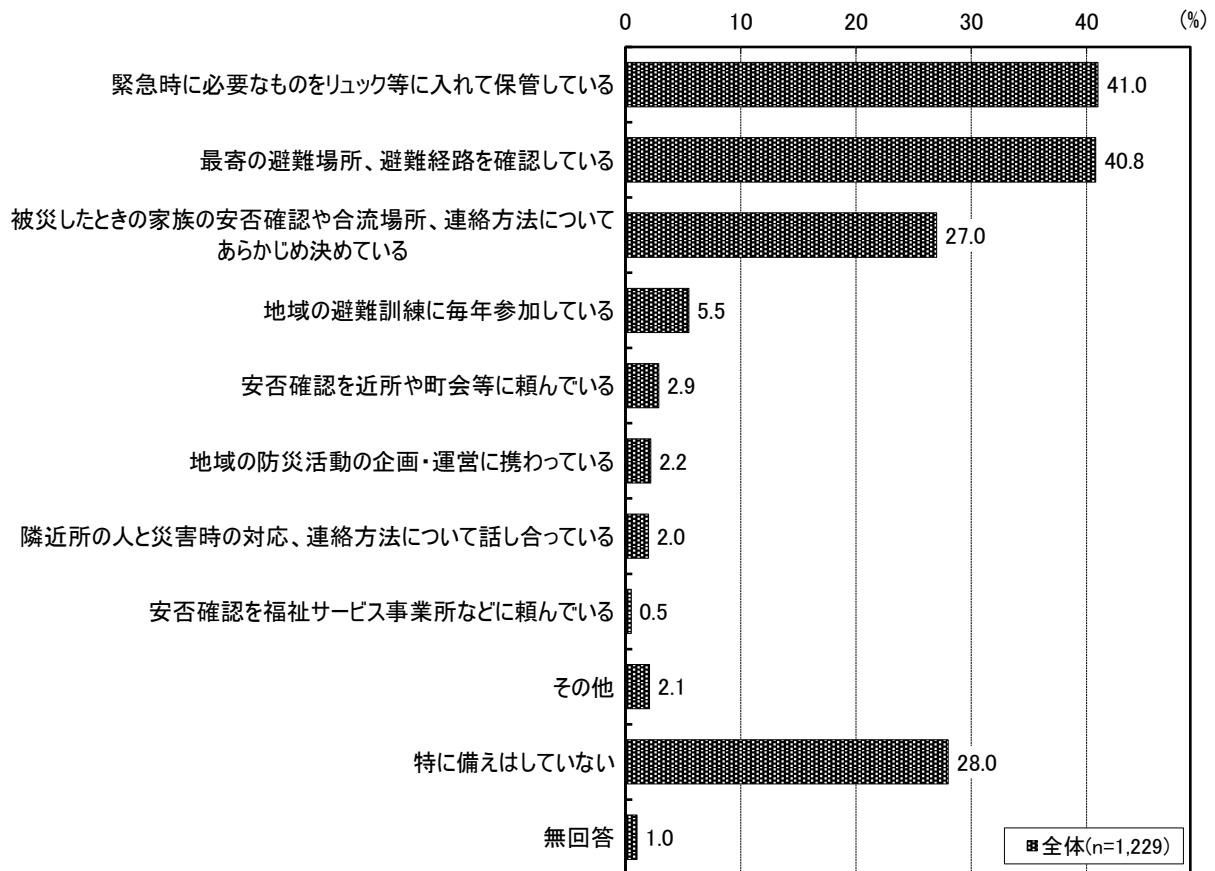
- ・「わからない」が55.6%と過半数を占め、次いで「今後利用したい」が26.9%、「利用したいと思わない」が15.3%、「すでに利用している」が0.9%となっています。
- ・年齢別にみると、「利用したいと思わない」は65歳以上で19.1%とやや多く、一方で「今後利用したい」は18～39歳で30.7%と比較的多くなっています。

問24 岸和田市の「成年後見センター」をご存じですか。(1つに○)



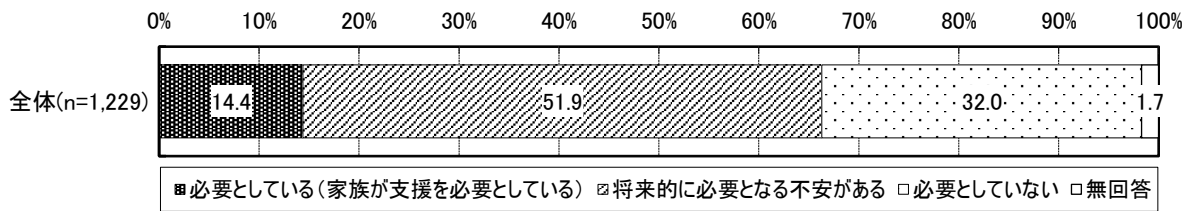
- ・「まったく知らない」が79.5%と非常に多く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が11.7%、「名前を聞いたことがある」が6.3%、「内容までよく知っている」が1.6%となっています。
- ・年齢別にみると、「まったく知らない」は18～39歳で90.9%と際立って多く見られます。

問25 地震災害など、いざという時のために日ごろからどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）



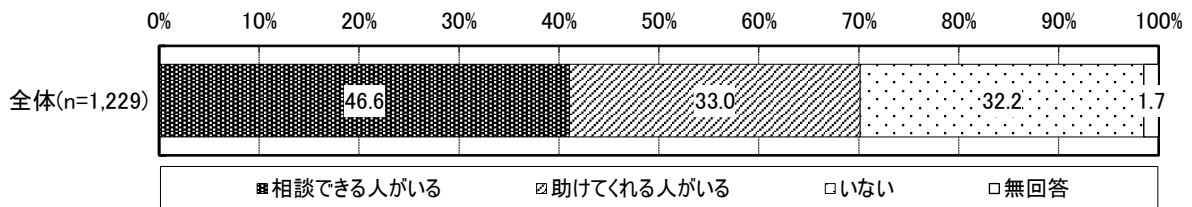
- ・「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」が41.0%と最も多く、次いで「最寄の避難場所、避難経路を確認している」が40.8%、「特に備えはしていない」が28.0%、「被災したときの家族の安否確認や合流場所、連絡方法についてあらかじめ決めている」が27.0%の順となっています。
- ・性別にみると、女性で「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」が45.6%、「最寄の避難場所、避難経路を確認している」が44.0%、「被災したときの家族の安否確認や合流場所、連絡方法についてあらかじめ決めている」が31.8%とそれぞれ男性より多くなっています。一方、「特に備えはしていない」は男性で34.4%と女性の22.6%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」は18～39歳で47.7%と多くなっています。

問26 あなたやご家族は、災害時（地震、台風など）の避難に際し、何らかの支援（移動、情報伝達、医療的ケアなど）を必要としますか。（1つに○）



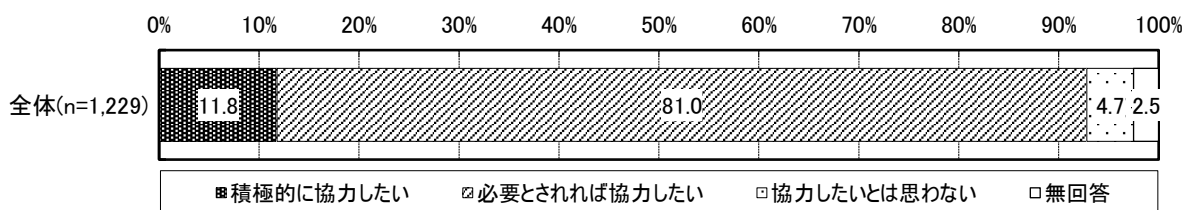
- ・「将来的に必要となる不安がある」が51.9%と最も多く、次いで「必要としていない」が32.0%、「必要としている（家族が支援を必要としている）」が14.4%となっています。
- ・年齢別にみると、「将来的に必要となる不安がある」は65歳以上で58.0%と多く、「必要としていない」は18～39歳で46.6%と多くなっています。

問27 あなたやご家族が災害が起こった際に、身近に相談できる人や助けてくれる人がいますか（あてはまるものすべてに○）



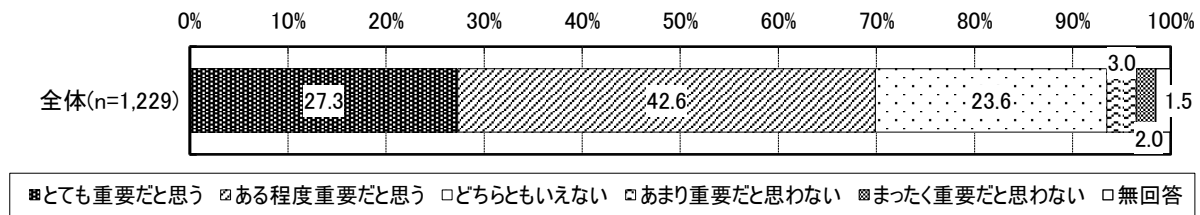
- ・「相談できる人がいる」が46.6%、「助けてくれる人がいる」が33.0%、「いない」が32.2%となっています。
- ・性別にみると、「助けてくれる人がいる」は女性で36.7%と男性の29.3%より多く、「いない」は男性で34.6%と女性の29.3%より多くなっています。

問28 あなたは、災害時に避難のための支援が必要な人（避難行動要支援者）への手助けや声かけ等の支援に関して、協力できますか。（1つに○）



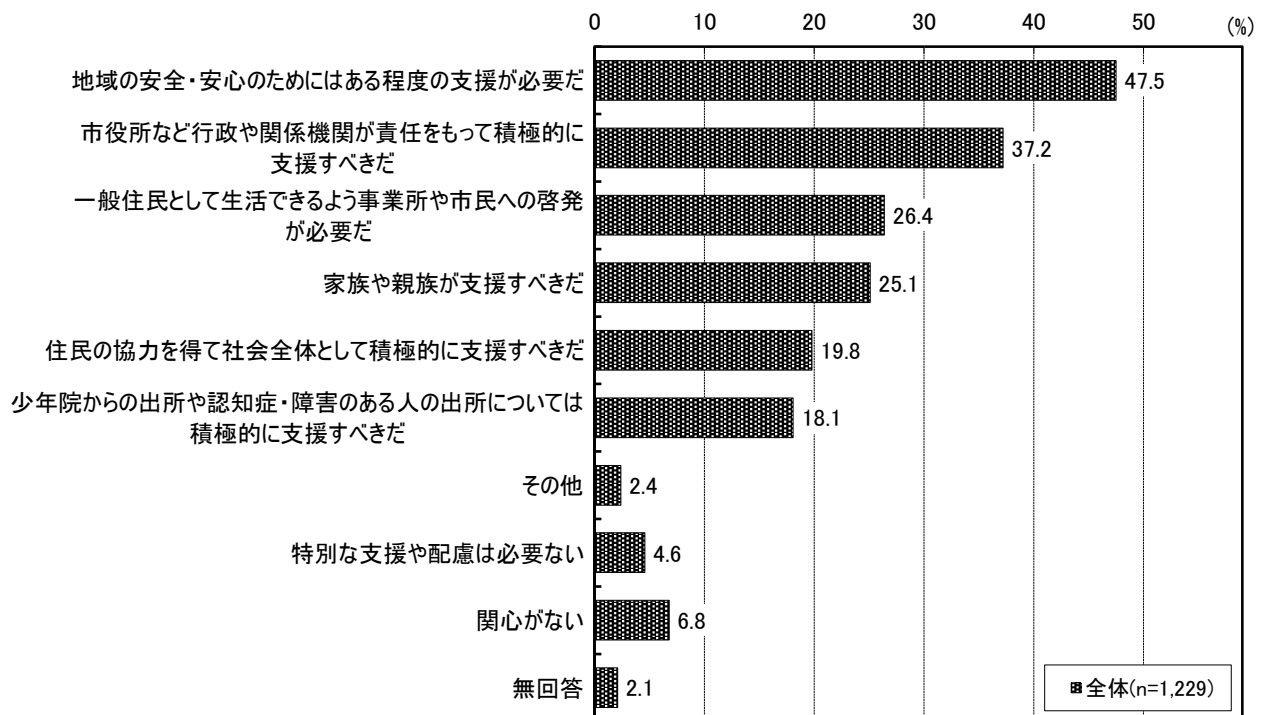
- ・「必要とされれば協力したい」が81.0%と大半を占め、次いで「積極的に協力したい」が11.8%、「協力したいとは思わない」が4.7%となっています。
- ・年齢別にみると、18～39歳で「積極的に協力したい」が17.0%、「協力したいとは思わない」が10.2%とやや多く見られます。

問29 犯罪や非行をした人が再び罪を犯さないよう、地域社会で支え、孤立させないための取り組みが重要だと思いますか。(1つに○)



・「とても重要だと思う」が27.3%、「ある程度重要だと思う」が42.6%と、合わせて重要だと思う人は69.9%となっており、「どちらともいえない」が23.6%となっています。

問30 刑務所や少年院を出た人が円滑に社会復帰できるように支援することについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(あてはまるものすべてに○)



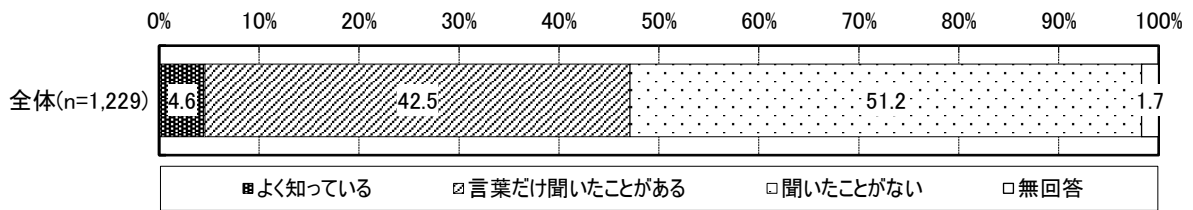
・「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」が47.5%と最も多く、次いで「市役所など行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」が37.2%、「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」が26.4%、「家族や親族が支援すべきだ」が25.1%、「住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ」が19.8%、「少年院からの出所や認知症・障害のある人の出所については積極的に支援すべきだ」が18.1%の順となっています。

・性別にみると、「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」は女性で52.7%と男性の41.7%より多くなっています。

・年齢別にみると、「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」は65歳以上で33.9%と多くなっています。

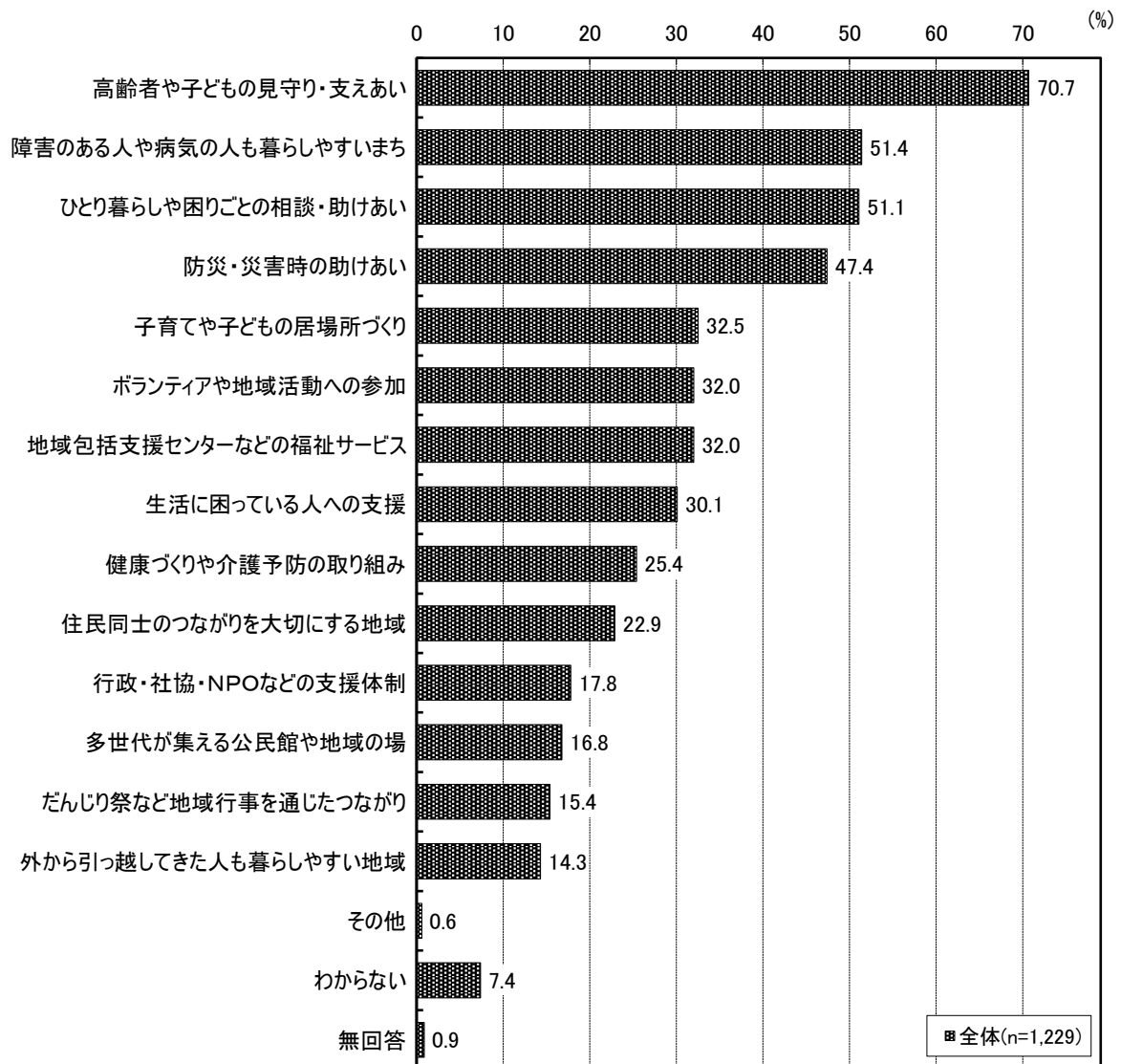
地域福祉を進めるための取り組みについて

問31 「地域共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)



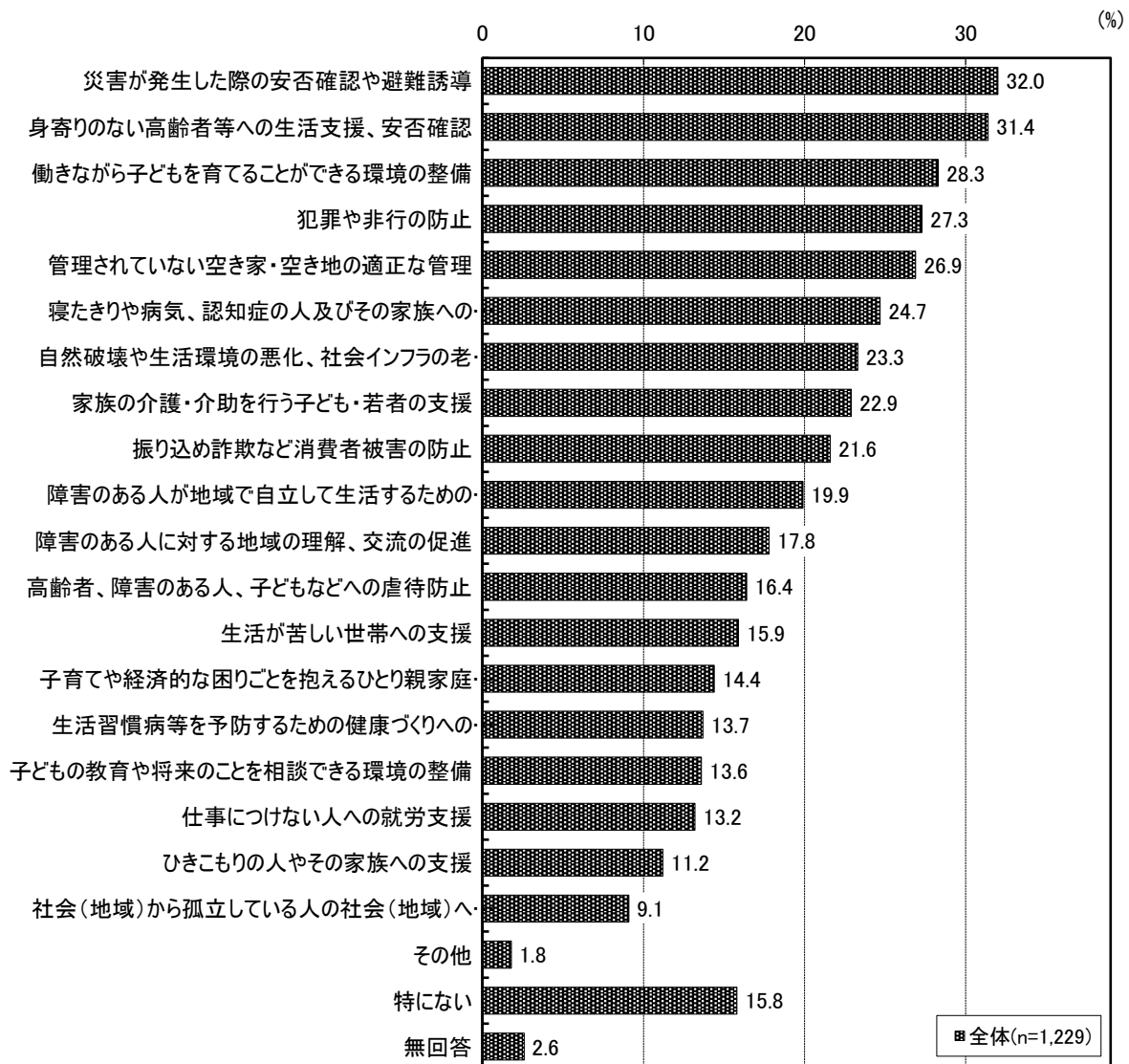
- ・「聞いたことがない」が51.2%、「言葉だけ聞いたことがある」が42.5%、「よく知っている」が4.6%となっています。
- ・年齢別にみると、「言葉だけ聞いたことがある」は18～39歳で51.1%と多く見られます。

問32 「地域福祉」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。あなたのイメージに近いものをいくつか選んでください。(あてはまるものすべてに○)



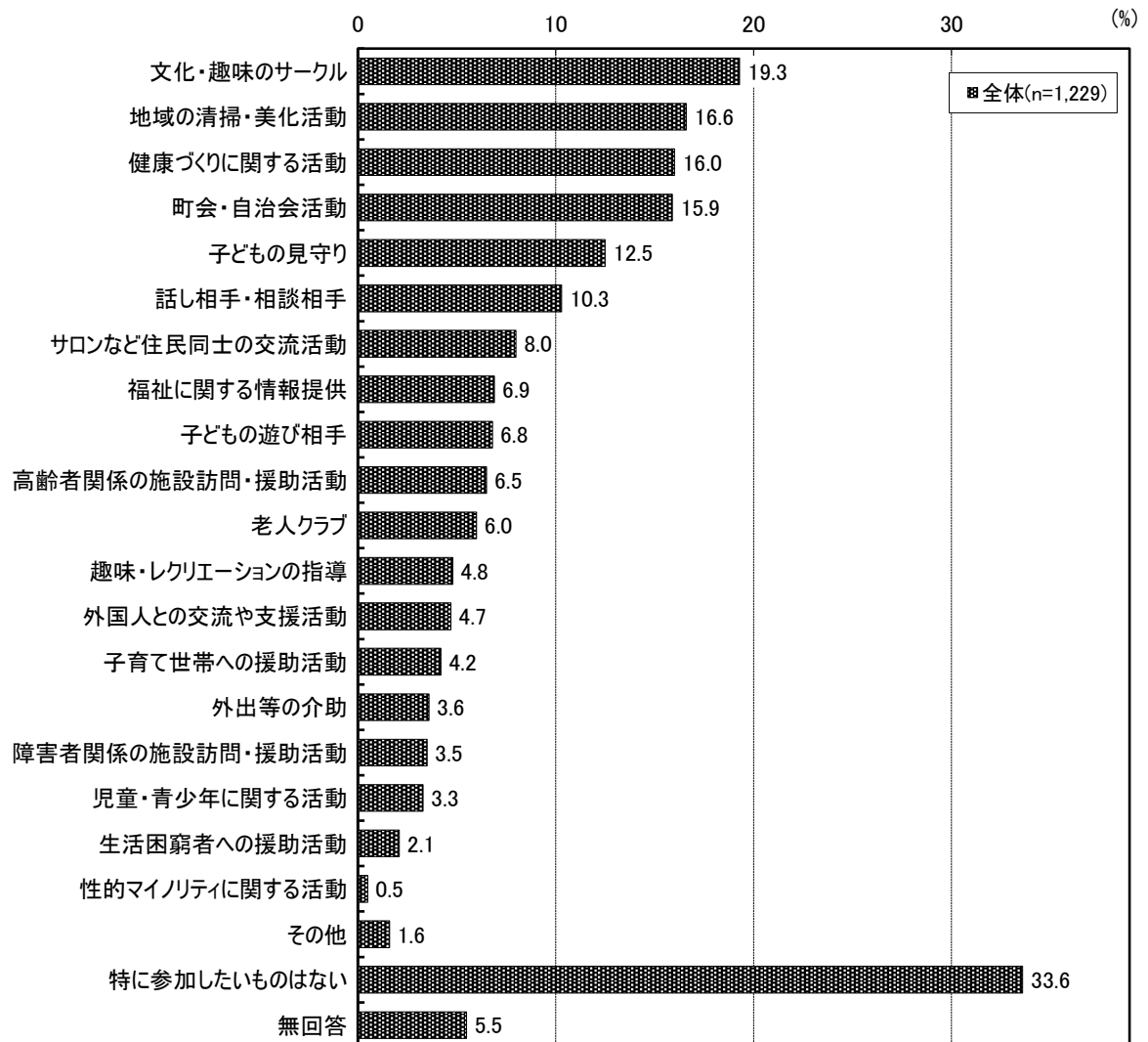
- ・「高齢者や子どもの見守り・支えあい」が70.7%と最も多く、次いで「障害のある人や病気の人も暮らしやすいまち」が51.4%、「ひとり暮らしや困りごとの相談・助けあい」が51.1%、「防災・災害時の助けあい」が47.4%、「子育てや子どもの居場所づくり」が32.5%、「ボランティアや地域活動への参加」が32.0%、「地域包括支援センターなどの福祉サービス」が32.0%の順となっています。
- ・年齢別にみると、65歳以上で「ひとり暮らしや困りごとの相談・助けあい」が58.5%、「防災・災害時の助けあい」が54.1%と多く、「子育てや子どもの居場所づくり」は40～64歳で37.6%、18～39歳で37.5%と多く見られます。

問33 お住まいの地域で日頃気になっていたり、課題と感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



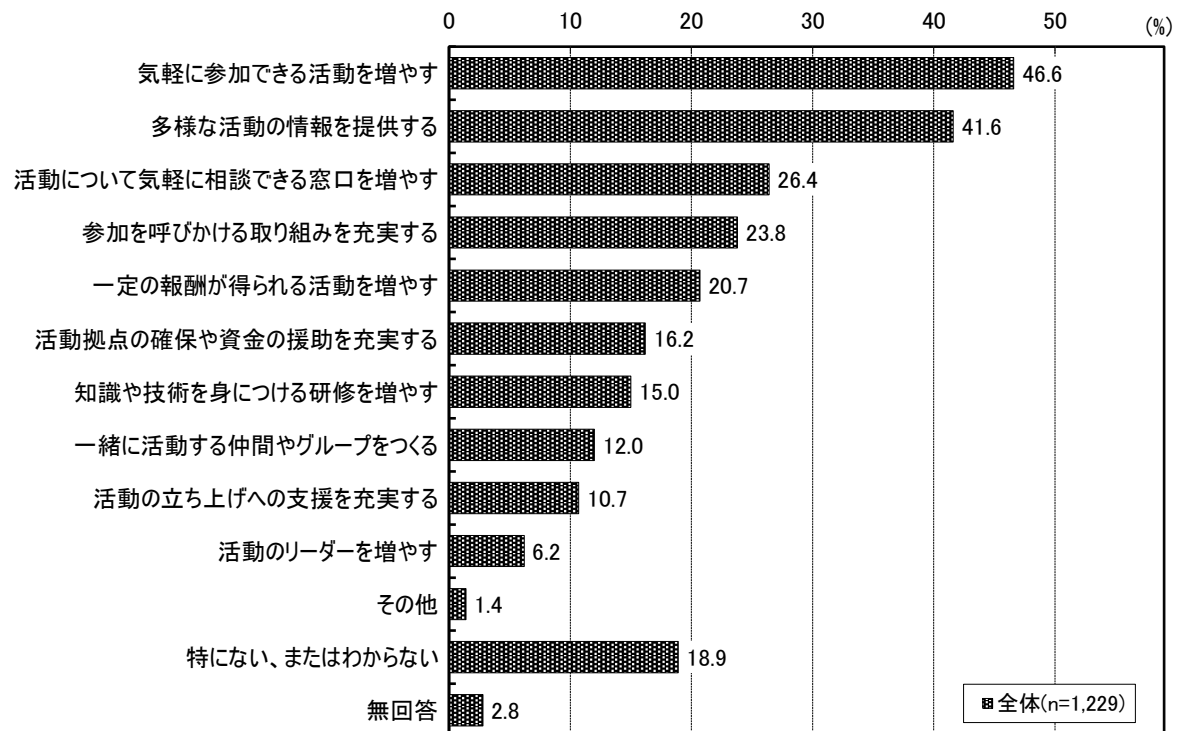
- ・「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が32.0%と最も多く、次いで「身寄りのない高齢者等への生活支援、安否確認」が31.4%、「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」が28.3%、「犯罪や非行の防止」が27.3%、「管理されていない空き家・空き地の適正な管理」が26.9%、「寝たきりや病気、認知症の人及びその家族への支援」が24.7%の順となっています。このほか、「自然破壊や生活環境の悪化、社会インフラの老朽化」が23.3%、「家族の介護・介助を行う子ども・若者の支援」が22.9%、「振り込め詐欺など消費者被害の防止」が21.6%で続いています。
- ・性別にみると、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」は女性で34.9%と男性の28.5%より多く、「家族の介護・介助を行う子ども・若者の支援」も女性で26.0%と男性の19.4%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」は40～64歳で34.4%と多く、「家族の介護・介助を行う子ども・若者の支援」も40～64歳で27.2%と多くなっています。

問34 現在参加されているものも含めて、今後参加したいと思われる福祉活動などがありますか。(あてはまるものすべてに○)



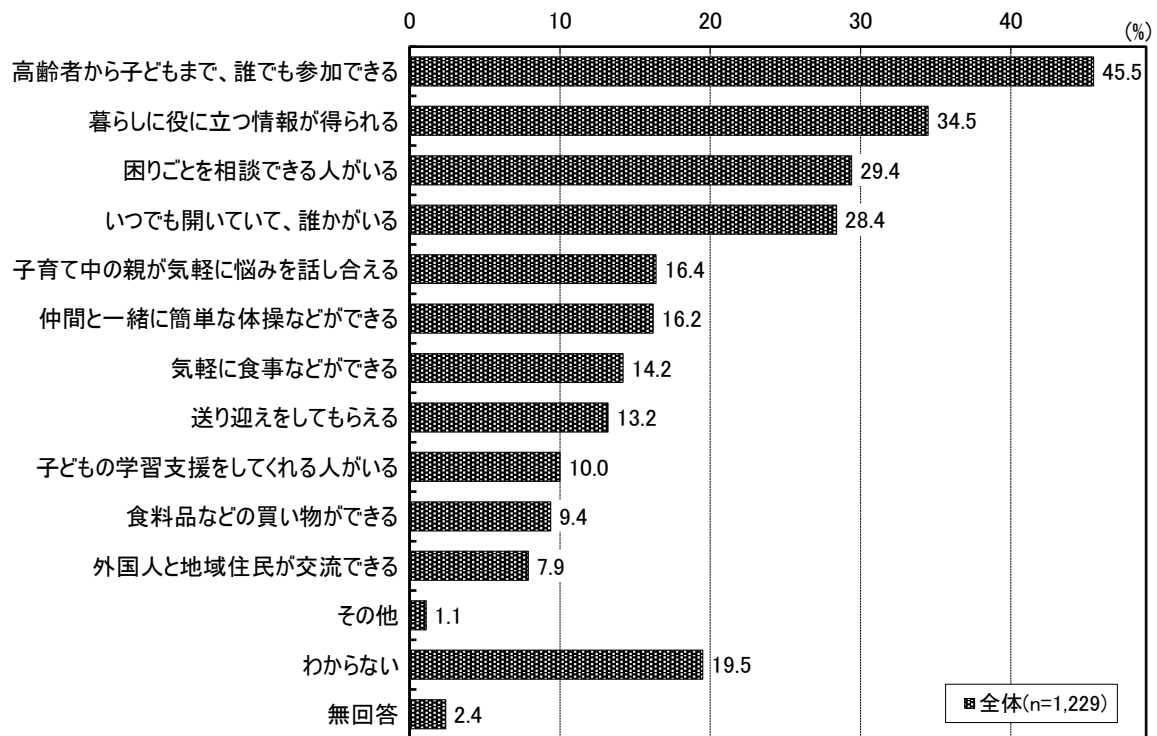
- ・「特に参加したいものはない」が33.6%と最も多く、参加したい活動としては「文化・趣味のサークル」が19.3%、「地域の清掃・美化活動」が16.6%、「健康づくりに関する活動」が16.0%、「町会・自治会活動」が15.9%、「子どもの見守り」が12.5%、「話し相手・相談相手」が10.3%の順となっています。
- ・性別にみると、「特に参加したいものはない」は男性で37.8%と女性の30.1%より多くなっています。一方、「文化・趣味のサークル」は女性で23.6%と男性の14.8%より多く見られます。
- ・年齢別にみると、「特に参加したいものはない」は18～39歳で52.3%と多い一方、「健康づくりに関する活動」や「文化・趣味のサークル」は65歳以上でそれぞれ21.9%と多く見られます。

問35 市民が福祉に関する活動にもっと参加するには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



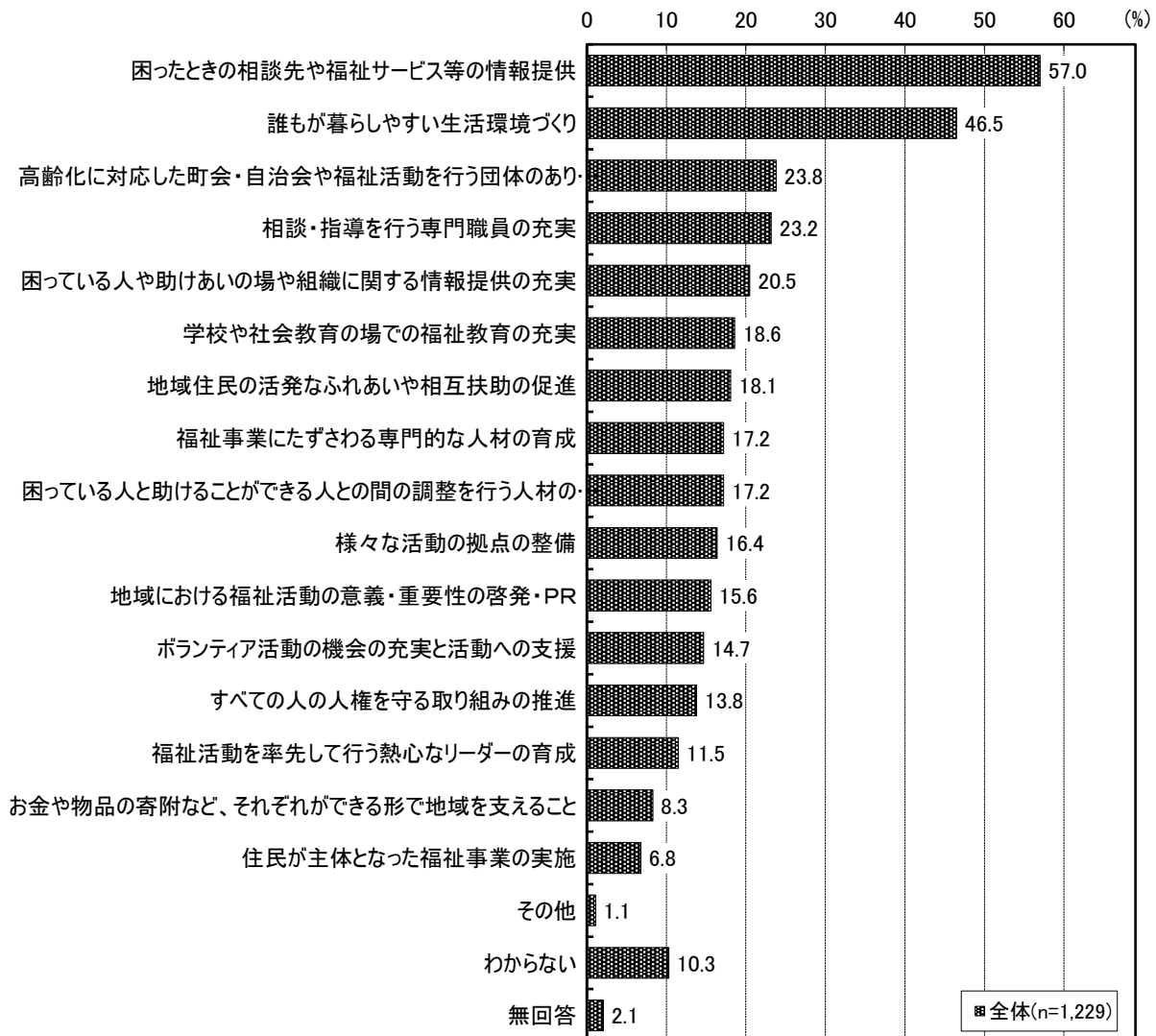
- ・「気軽に参加できる活動を増やす」が46.6%と最も多く、次いで「多様な活動の情報を提供する」が41.6%、「活動について気軽に相談できる窓口を増やす」が26.4%、「参加を呼びかける取り組みを充実する」が23.8%、「一定の報酬が得られる活動を増やす」が20.7%の順となっています。
- ・年齢別にみると、「一定の報酬が得られる活動を増やす」は40～64歳で27.3%と多く、「特にない、またはわからない」は18～39歳で27.3%と多く見られます。

問36 今後、地域において、どのような集いの場が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



- ・「高齢者から子どもまで、誰でも参加できる」が45.5%と最も多く、次いで「暮らしに役に立つ情報が得られる」が34.5%、「困りごとを相談できる人がある」が29.4%、「いつでも開いていて、誰かがいる」が28.4%、「子育て中の親が気軽に悩みを話し合える」が16.4%、「仲間と一緒に簡単な体操などができる」が16.2%と、誰でも参加できる開かれた場、情報が得られる場、相談できる場へのニーズが高いことがうかがえます。
- ・性別にみると、女性で「高齢者から子どもまで、誰でも参加できる」が47.6%、「いつでも開いていて、誰かがいる」が31.8%、「子育て中の親が気軽に悩みを話し合える」が20.0%、「仲間と一緒に簡単な体操などができる」が19.4%と、交流や相談、参加しやすさに関わる場へのニーズが強い傾向がみられます。
- ・年齢別にみると、「困りごとを相談できる人がある」は18～39歳で34.1%と多く、「子どもの学習支援をしてくれる人がある」も18～39歳で17.0%、「気軽に食事などができる」も18～39歳で26.1%と多く見られます。

問37 身近な地域で住民が助けあい支えあうために、どのようなことが大切だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



- ・「困ったときの相談先や福祉サービス等の情報提供」が57.0%と最も多く、次いで「誰もが暮らしやすい生活環境づくり」が46.5%、「高齢化に対応した町会・自治会や福祉活動を行う団体のあり方」の見直し」が23.8%、「相談・指導を行う専門職員の充実」が23.2%、「困っている人や助けあいの場や組織に関する情報提供の充実」が20.5%、「学校や社会教育の場での福祉教育の充実」が18.6%、「地域住民の活発なふれあいや相互扶助の促進」が18.1%、「福祉事業にたずさわる専門的な人材の育成」と「困っている人と助けることができる人との間の調整を行う人材の育成」がそれぞれ17.2%となっています。
- ・性別にみると、「困ったときの相談先や福祉サービス等の情報提供」は女性で60.0%と男性の54.5%より多く、「誰もが暮らしやすい生活環境づくり」も女性で52.4%と男性の38.8%より多くなっています。
- ・年齢別にみると、「高齢化に対応した町会・自治会や福祉活動を行う団体のあり方」の見直し」は65歳以上で28.8%と多く、「学校や社会教育の場での福祉教育の充実」は18～39歳で23.9%と比較的多く見られます。

自由回答意見

- ◆最後に、地域における福祉活動の推進や暮らしやすい地域づくりに向けたご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

1 地域コミュニティの希薄化と参加の難しさ

地域コミュニティへの参加の難しさや、地域のつながりの弱まりに関する意見が多く見られます。町会や自治会に参加する人が減少しており、特に若い世代については仕事や子育てに忙しく、地域活動に関わる余裕がないとの指摘があります。また、マンション居住者と従来の地域住民との間に温度差があり、受け入れが十分でないと感じている声も見られました。

岸和田特有の文化である祭礼（だんじり）を中心とした人間関係については、参加している人同士の結びつきは強い一方で、参加していない人や転入者が地域に入りにくいと感じている意見もあり、地域への関わり方に偏りが生じている実態がうかがえます。

2 地域活動の担い手不足と高齢化

地域活動を担う人材の不足や高齢化も大きな課題として挙げられています。町会・自治会活動の中心が高齢者となり、行事の継続が難しくなっているとの声や、活動自体が縮小している状況が指摘されています。

福祉活動をボランティアに依存する現状に対しては、十分な知識や経験がないまま関わることで支援の質に影響が出ているのではないかという懸念も示されており、活動の継続に必要な担い手の確保、参加しやすい仕組みづくりや人材育成の必要性が重視されています。

3 移動手段・生活支援に関する課題

高齢化の進行に伴い、移動手段や日常生活支援に関するニーズが多く挙げられています。山手地域ではバスの本数が少なく、車を運転できなくなると外出が困難になるとの声や、免許返納後の生活に不安があるため小型バスの運行を望む意見が見られます。

また、買い物や通院の手段が不足していることや、一人暮らし高齢者に対する見守りやごみ出しの支援、通院支援の必要性も指摘されており、地域で安心して暮らし続けるための支援体制の充実が求められています。

4 情報提供・周知の不足

福祉サービスや地域活動に関する情報が十分に届いていないという意見も多く見られます。広報やホームページなどで情報発信は行われているものの、関心の低い人には届きにくいとの意見や、よりわかりやすいチラシの配布、SNSなど多様な媒体による情報発信の強化を求める声があります。

また、インターネットによる情報提供だけでなく、対面での説明や声かけといった方法が重要だとの意見もあり、情報提供の手法そのものの見直しが必要とされています。

5 子育て・若年世帯への支援

子育て世帯への支援や若年層の定住促進に関する意見も多く寄せられています。保育所の入所枠不足や子育てにかかる経済的負担の大きさが課題として挙げられており、働きながら子育てがしやすい環境整備を求める声が見られます。

また、若い世代が住み続けたいと思えるまちづくりとして、子どもの遊び場や交流の場の充実、商業施設の誘致などを求める意見もあり、人口減少対策と福祉施策を一体的に進める必要性が示されています。

6 高齢者・障害者支援の充実

高齢者や障害のある人への支援に関する意見では、一人暮らし高齢者への終活支援や見守り体制の充実、日常的に集える居場所の必要性などが挙げられています。また、車いす利用者や足の不自由な人が安心して外出できるよう、歩道の整備や段差の解消を求める意見や、冷暖房費など生活に直結する支援の必要性も示されています。

障害のある人が地域で安心して生活できる環境づくりや理解促進の重要性も指摘されています。

7 地域環境・インフラ整備への要望

暮らしやすい地域づくりに向けて、生活環境やインフラ整備に関する意見も多く見られます。歩道の凹凸や排水不良による浸水、空き家や空き地の増加といった課題が指摘されており、防犯や景観、生活安全の観点からの対応が求められています。

また、防犯カメラの設置や治安の改善を求める声もあり、安全・安心な地域づくりに向けた基盤整備の重要性がうかがえます。

8 行政への要望と役割への期待

行政に対しては、福祉施策の推進における積極的な関与やリーダーシップを求める意見が多く見られます。

また、相談しても十分な対応が得られなかったという経験や、施策の内容や効果が市民に十分伝わっていないという指摘がある一方で、行政が主体的に関与し専門的な対応体制を整えることで、市民も安心して協力できるようになるとの期待も示されています。

9 多様性・共生社会に関する視点

少数ではあるものの、今後の地域福祉を考えるうえでの重要な視点として、多様性や共生に関する意見も見られました。外国人住民の増加に対する不安や、文化の違いを踏まえた共生のあり方に関する意見、障害の有無に関わらず自然に声をかけ合える地域づくりの必要性などが挙げられています。また、個人情報保護の観点から見守り活動が難しくなっているという課題も指摘されています。

10 地域の強みと前向きな意見

以上のような課題が多く挙げられる一方で、岸和田には地域のつながりが残っているという評価や、声かけや交流を大切にしたいという前向きな意見も見られました。地域の人々の関わりが一定程度維持されていることは強みであり、こうした資源を活かしながら、誰もが参加しやすい地域づくりを進めていくことが重要であると考えられます。

総括

地域コミュニティの再構築、担い手の確保・育成、移動や生活支援の充実、情報発信の工夫、そして行政の積極的関与が重要な課題として整理されます。そのうえで、地域の持つつながりや文化といった強みを活かしながら、多様な住民が関わりやすい共生型の地域づくりを進めていくことが、今後の地域福祉の推進において求められます。